

平成29年度(平成28年度実績)点検評価 内部評価・外部評価一覧

具体的施策名		内部評価	外部評価
1	教育環境の整備と支援の充実	B	B
2	学校教育環境整備の充実	A	A
3	小中一貫教育の推進	B	B
4	学校給食の充実	B	B
5	名護市立教育研究所運営の充実	B	B
6	学力向上推進事業の充実	B	B
7	I C T (情報通信技術) を活用した教育の推進	B	A
8	国際社会に対応できる人材の育成	B	A
9	キャリア教育の充実	A	A
10	幼児教育の充実	B	A
11	教育関係機関等との連携	B	B
12	心豊かな人間性を育む教育の推進	B	B
13	人権教育や平和学習の充実	B	B
14	生徒指導の充実	B	B
15	特別支援教育の充実	A	A
16	文化財の保全及び普及活用	A	A
17	博物館活動の充実	A	B
18	市民の市史づくり	A	A
19	新博物館の建設	B	B
20	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	A	A
21	全市民へ公平なサービスの提供	B	B
22	市民会館事業の充実	B	B
23	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	B	B
24	中央公民館の充実	A	A
25	地域公民館の充実	B	B
26	スポーツ活動事業の推進	B	B
27	青少年のスポーツ活動の推進	C	B
28	競技スポーツの推進	B	B
29	社会体育施設の整備	B	B
30	青少年の健全育成事業の充実	B	B
31	家庭教育の支援	B	A
32	地域の教育力の充実	B	A
33	社会教育団体の活性化	B	B

具体的施策名	教育環境の整備と支援の充実	主管課	総務課 学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(1)	教育環境の整備と支援の充実

目的	教育委員会事務局並びに市立幼稚園、小学校及び中学校の教育環境の整備と支援の充実を図る。
----	---

主な取組	① 「名護市教育の日」の充実 取組の内容：1月第3日曜日を「名護市教育の日」と定め、式典やシンポジウムを行う。また、1月を「名護市教育月間」と定め、様々な関連行事を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		「名護市教育の日」が市民へまだ浸透していない。				認知度不足。市民や保護者を巻き込んだ取組が必要。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	「教育の日」の認知度を上げ、市民を巻き込んだ運動へとつなげる。		平成28年度	式典及びシンポジウム参加者数の増を目指し、「教育の日」の認知度を上げる。		<ul style="list-style-type: none"> <li>平成28年1月15日式典及びシンポジウムの開催(参加者557人)</li> <li>教育功労者個人13人、3団体、児童生徒表彰個人12人、3団体</li> <li>シンポジウム(読書の魅力を感じよう！伝えよう！)</li> <li>教育の日関連事業:3事業</li> </ul>	参加者が目標の700人に届かなかった。子どもシンポジウムから通常のシンポジウムとなったことなどにより、若干参加者が減となった。再度子どもを中心としたシンポジウムの検討を行い、市民や保護者を巻き込んだ活動を推進し、参加者の増を目指し、「教育の日」の認知度を上げたい。		
			目標値	1,000人 5事業		目標値	700人 5事業			実施値	557人 3事業
		成果指標	式典及びシンポジウムの参加者 教育の日関連事業の実施数								
		② 学校評議員制度の充実 取組の内容：地域住民の学校運営への参画を促し、また学校運営について地域へ周知するための学校評議員制度を充実させる。									
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		全学校に学校評議員会が設置されている。年1回委嘱状の交付式並びに研修会を開催し、講師を招き「学校評議員の役割と目指す方向」という演題で講話、充実を図っている。				学校評議員にその役割を理解してもらいたい、学校評議員制度の充実を図る必要がある。学校教育法施行規則等の一部を改正する省令(平成12年4月1日施行)学校・家庭・地域が連携協力しながら一体となって子どもの健やかな成長を担っていくため、地域に開かれた学校づくりをより一層推進する観点から、学校に、学校評議員を置くことができるようになった。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	学校評議員制度の更なる充実を図る		平成28年度	学校評議員制度の更なる充実を図る		学校評議員委嘱状交付式並びに研修会参加:55人/78人(71%) 学校評議員会の開催:全学校2回達成 学校評議員会への参加率:97%	委嘱状交付式並びに研修会の参加率を高める工夫が必要		
			目標値	年2回以上 100% 95%		目標値	全学校2回 100% 80%			実施値	全学校2回 97% 71%
成果指標	学校評議員会の開催状況 評議員の学校評議員会への参加率 学校評議員の研修会への参加率										
③ 取組の内容:											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
平成30年度	目標値		平成28年度	目標値			実施値				
成果指標											
④ 取組の内容:											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
平成30年度	目標値		平成28年度	目標値			実施値				
成果指標											

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		C	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	「教育の日」の制定は、大きな意義があり市民の教育力向上に貢献できる。しかし、前年度より更に参加者が減り、反省点で示している通り、市民、保護者への認知度を上げたい。シンポジウムに児童生徒も参加させてもよいのではないか。また、市民を巻き込んだ取組を検討する必要がある。そのため、協賛団体との連絡会の持ち方を検討する必要がある。評議員の役割として、地域に開かれた学校作りの推進として、明確な視点が見えない。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	教育の日については、式典の参加人数を目標値に設定したことが、学校行事の硬直化に繋がったのではないかと懸念される。何のための式典なのか、市民・保護者への巻き込みというアプローチではなくなっている。学校評議員制度、名護市教育月間、教育の日も、これまでの取組で定着してきているが、さらなる充実のためには、市民や保護者を巻き込んだ具体的な企画の工夫が必要である。学校評議員制度は制度そのものが形骸化してしまい、実質的には本来の開かれた学校への取組には結びついていないため、制度そのもの見直し求められる。							

具体的施策名	学校教育環境整備の充実	主管課	教育施設課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(2)	学校教育環境整備の充実

目的	子ども達にとってより良い教育環境の提供を行なうため、その支援と充実を図る。
----	---------------------------------------

主な取組	① 学校施設設備及び遊具等の整備・修繕 取組の内容: 学校からの整備設置修繕要請を受け現場調査を行い、整備及び修繕を行なっている。また、年に1回教育施設課職員による、施設及び遊具の点検を実施している。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		幼稚園21件、小学校101件、中学校47件、合計169件の修繕対応(事務局執行分予算のみのため、施設課職員及び学校予算対応分については含まれません)遊具修繕が小学校5件、幼稚園3件、遊具の新規購入が小学校2件となっている。				施設設備の経年劣化によるものが原因と考えられる。							
		平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点					
			年1回の学校施設遊具点検を行い施設不備による事故の発生を防ぐ		年1回の学校施設遊具点検を行い施設不備による事故の発生を防ぐ								
			目標値	0件	目標値	0件							
		成果指標	施設・遊具不備による事故件数				・修繕要請に基づく修繕対応 ・教育施設課職員による学校施設、遊具の定期的な点検の実施(年1回) ・日常的な点検については学校側で行ってもらう旨の周知	事故につながる施設及び遊具不備は0件であったが、早めの不備箇所把握に努めた。					
			教育施設課職員による全学校年1回施設・遊具点検								実施値	0件	
												年1回	
		② 学校施設の耐震化事業 取組の内容:昭和56年以前の旧耐震基準に基づき建設された構造上危険な状態にある学校施設について、新增改築事業を実施し安全で安心な教育環境の整備を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
			平成27年度は6件の事業を完了したが、平成28年度へ繰り越した事業は6件となった。また、屋我地小中学校については、平成28年4月に小中一貫教育校となることもあり、当初予定のスケジュールからは外れている。				・学校施設の耐震化事業の推進に伴い、平成27年度は繰越事業も重なり事業量が大幅に増え繁忙期となった。 ・業務に係る免許を有する委託職員を増員する予定であったが、該当する技術者の確保ができなかった。 ・屋我地小・中学校においては、小中一貫教育校に伴う施設の一体化に向けた調整を行う必要があり、耐震化の前倒しからは除くこととなった。						
			平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点				
				構造上危険な状態にある学校施設について新增改築事業を実施し、耐震化率100%を実現する。		屋我地小・中学校を除く学校施設の耐震化の完了							
目標値	100%			目標値	98.20%								
成果指標	耐震化率				平成28年度に完了した事業 ・稲田小学校校舎改築事業(591㎡) ・名護小学校校舎改築事業Ⅱ期(2,163㎡) ・瀬喜田小学校校舎改築事業(1,022㎡) ・名護中学校校舎改築事業Ⅱ期(1,199㎡) ・久辺中学校校舎改築事業Ⅱ期(505㎡) ・羽地中学校校舎改築事業(2,119㎡)	平成28年度に繰越した事業が完了したことにより、小中学校施設の耐震化が一部を除き完了する運びとなった。							
									実施値	98.20%			
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因								
	平成30年度		目標		目標		取組概要	成果及び反省点					
			目標値		目標値								
	成果指標						実施値						
	④	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点					
			目標値		目標値								
成果指標							実施値						

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	事故件数が0件ということでA評価にしたが、実際に利用する子どもたちの声を聞き、学校側の点検も周知したほうが良い。 予期せぬ事故を防止、早期の不備箇所把握のために、学校側の日常点検簿の記載徹底と定期的な点検が必要。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	教育環境の整備については、学校施設・遊具点検の実施や学校からの修繕要請への対応が適切になされており、日常的なメンテナンスについても現場と連絡体制が築かれている。 耐震化もほぼ完了し、安全・安心な教育環境の整備が図られつつある。 今後も限られた予算の中で、より充実させていくたに効率的な整備をお願いしたい。							

具体的施策名	小中一貫教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(3)	小中一貫教育の推進

目的	二見以北地域及び屋我地地域の子どもたちにとって、より良い教育環境を提供する。
----	--

主な取組	①「緑風学園」の教育活動の充実 取組の内容: 小規模特任校制度や教育課程特例校(英語科)を導入した特色ある教育活動の実施。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		再び複式学級に陥らないよう特色ある学校づくりを行うため、平成21年度から教育課程特例校制度や小規模特任校制度を導入した小中一貫教育校の開校に向け、当該事業の取組を開始した。小規模特認校制度等を活用し転入学する児童生徒数は、H24年度1人、H25年度17人、H26年度2人、H27年度4人と推移している。				更なる教育環境の充実を図るため、緑風学園の特色ある教育活動の取組・実績を周知し、小規模特任校制度を活用するなど児童生徒増を図るための周知が必要である。					
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
			平成30年度	特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		平成28年度	特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		①非常勤講師1人を配置し、小中一貫教育の研究を行う本務教諭の後補充やTT授業を実施した。 ②特色ある教育活動の一つである英語教育の充実を図るため、日本人英語教師1人を配置し、学級担任とALTとの繋ぎを主体的に行い、より充実した英語教育を実施した。 ③中学生を対象に、年3回実施される英検のうち、その検定料を一人年1回全額助成を実施。 児童生徒一人一人に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるため、TT授業や乗り入れ授業等により個別指導の徹底を行った。また、裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直しを全職員体制で計画的に行った。 英語科の授業では、学級担任とALT、JTE及び中学校英語教師によるTT授業や実技教科における部分的イマージョン教育の実施、小学校から文字指導を行った。 児童生徒一人一人の社会的・職業的な自立を目指し、キャリア教育を学校教育全体を通じて体系的に実施するとともに、自然体験学習や稲作等で地域人材等の活用を推進した。	開校から4年を経過したが、教職員の異動等もあり、今一度、開校当時の理念を教職員間で共通理解する必要が生じている。	
				児童生徒数	168人		159人	実施値			159人
				非常勤講師の配置	1人		1人				1人
				日本人英語教師(JTE)の配置	1人		1人				+2.1
				沖縄県到達度調査(8年生5教科総合県比較)	+8		±0				47%
		英検合格率(3級以上)		50%	45%		100%				
		職場体験・ジョブシャドウイング参加率	100%	100%							
②「屋我地ひるぎ学園」の教育活動の充実 取組の内容: 小規模特任校制度や教育課程特例校(英語科)を導入した特色ある教育活動の実施。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	屋我地小中学校に通う児童生徒数が減少傾向にある。2年と3年において複式学級となっている。				屋我地地域における過疎化及び少子化により児童生徒が減少したことによる。						
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	児童生徒数の増 複式学級の解消		平成28年度	特色ある教育活動を実施し、児童生徒数の増を目指す。		①児童生徒一人一人に基礎的基本的な知識・技能を身に付けさせるため、TT授業を中心に個に応じた指導の徹底を行った。また、裁量の時間を活用した補習指導、長期休業中の学び直しを全職員体制で計画的に行った。 ②特色ある教育活動の一つである英語教育の充実を図るため、日本人英語教師1人を配置し、学級担任とALTとの繋ぎを主体的に行い、より充実した英語教育を実施した。 ③中学生を対象に、年3回実施される英検のうち、その検定料を一人年1回全額助成を実施。 ④英語科の授業では、学級担任とALT、JTE及び中学校英語教師によるTT授業を実施。	非常勤の乗り入れ授業が少なかった。		
			児童生徒数				実施値			104	
			沖縄県到達度調査(8年生5教科総合県比較)							-4.5	
			英検合格率(3級以上)	50%						33%	
			英検ジュニア ブロンズ正答率(5年生)	82%						89%	
	英検ジュニア シルバー正答率(6年生)		78%			80%					
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
成果指標		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	—		平成28年度	—		実施値	—		
			目標値			目標値					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	「緑風学園」「屋我地ひるぎ学園」の特色ある教育活動を実践しており、目的は十分に評価できる。開校当初の理念である小中教職員間の共通理解が最も重要である。5年間の実績を踏まえ、教職員に対して、継続した理念の周知徹底を図る必要がある。緑風学園で得た小中教職員間の共通理解を「ひるぎ学園」でも徹底して周知実践する必要がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	緑風学園の特色ある教育活動の成果が見える。今後も開校時の理念を確たるものにし、よりよい教育活動の展開を望む。 屋我地ひるぎ学園については、理念・目標等を明確にし教職員が一丸となつての推進を望む。生徒数の増加は、様々な要因があり一朝一夕には増加するものでないため、開校当初の理念を地域全体で共有し、継続していただきたい。							

具体的施策名	学校給食の充実	主管課	総務課、 (プロジェクトチーム)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(4)	学校給食の充実

目的	子どもたちにより安全・安心な学校給食の提供を行うため、その支援と充実を図る。
----	--

主な取組	① 学校給食施設の再整備 取組の内容: 名護市立学校給食施設再整備基本計画(平成21年3月策定)に基づき、老朽化した学校給食施設(5か所)を2か所に再編する。 また、新しい学校給食施設においてアレルギー対応の対象食材、除去食調理体制の検討と調理及び配送の民間委託の検討を行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		市内にある5つの学校給食施設は全て老朽化が進んでおり、かつ、学校給食衛生管理基準を満たしていない。平成21年に「名護市学校給食施設再整備基本計画」を策定し、建設に向けて取組を進めているが、計画より遅れている。				施設の老朽化及び備品の劣化により、学校給食衛生管理基準を満たせる機能を備えていない。予算確保の課題があり、その課題解消のための検討を行っているため、当初の計画より遅れている。			
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点
			(仮称)第一学校給食センター完成。アレルギー対応調理室の設置。	1施設		0施設	・老朽化した学校給食施設の耐力度調査(取り壊した場合、補助事業対象となる)の実施 ・第一学校給食センターの建設予定地の造成設計の実施 ・第一学校給食センターの基本設計の実施 ・第一学校給食センター建設予定地の土質調査の実施 ・第二学校給食センター建設候補地選定委員会の開催及び候補地の決定		
	成果指標	新学校給食センターの建設件数	1施設	0施設	実施値	0施設			
		アレルギー対応調理室の設置	1室	—		—			
		第二センターの候補地の決定	1カ所	1カ所		0カ所			
	② 学校給食における安全な食材の使用及び地産地消の推進 取組の内容: 栄養士、栄養教諭を中心に学校全体で食育に取り組むとともに、農産物をはじめとした地元の食材を使った給食を提供できるよう、関係機関と連携を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		平成27年度 名護市産農産物利用率 21% 地域地産地消連絡協議会3回開催				積極的に名護市産農産物を取り入れているが、不足する分については、県内産、国内産など近い地域の食材を選定して納品している。			
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点
			名護市産農産物の割合の増加を目指す。	30%		名護市産農産物の割合の増加を目指す。	23%		
	成果指標	名護市産農産物の割合		目標値		実施値		22.6%	
	③ 名護市立学校給食費補助 取組の内容: 名護市立の小学校及び中学校に在籍している児童生徒が3人以上で過去2年度において、給食費の未納がない保護者を対象に、3人目以降の在籍児童等の学校給食費保護者負担分を補助金交付する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		3人目補助の交付 96%				過去2年間に未納がないことが給食費補助の条件であるため、補助制度の活用が徴収率の向上にもつながっている。			
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点
該当世帯の学校給食費未納をなくし、すべての対象者に補助金を交付する。			100%	該当世帯の学校給食費未納を減らし、補助金交付率の向上を目指す。		96%	3人目以降の在籍児童等に係る学校給食費補助金交付をおこなった(469人) 過去2年間に未納がある世帯については、納付相談等を行い、計画的に支払うよう指導を行った。		
成果指標	交付率		目標値		実施値		95.5%		
④ 学校給食費徴収率の向上 取組の内容: 学校給食費の充実を図るために徴収体制の強化をはかる。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	平成27年度徴収率 94%				保護者への給食費徴収に関する周知を徹底し、徴収率は徐々に向上している。収納業務がシステム化されておらず、事務手続きに時間がかかっている。				
	平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
		納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。	95%		納付相談等を実施し、学校給食費徴収率の向上を図る。	94%			保護者への口座振込手続き 未納者への督促・勧告 未納者への納付相談及び指導 未納者への誓約書締結 未納者への戸別訪問 未納者への法的措置
成果指標	徴収率		目標値		実施値		95.8%		

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		C	B	B	B			
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	第一、第二給食センターの完成に向けた取組は評価できるが、一日も早い完成を期待する。給食費徴収率も年々向上しているため、今後も粘り強く続けてほしい。これからの食の安全性を考えると、やはり地産地消は重要な役割だと考える。農産物の市内、県内、国内産の確保は厳しい面もあると思うが、加工品においても安全な食品確保に努めてほしい。目標値を上回っているが、未納者への督促・催告の強化してほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	A	B			
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	全体として目標値を上回っており、取り組みは評価できる。給食費の収納システムについては経年的課題であるので、業務効率化のためにも対応が望まれる。第一学校給食センター建設が遅れているが、衛生的で安全・安心の施設が、今後計画通り着実に実施できるよう力を尽くしていただきたい。							

具体的施策名	名護市立教育研究所運営の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	1	より良い教育環境の整備
					具体的施策	(5)	名護市立教育研究所運営の充実

目的	子どもたちが安全・安心に学校生活送れるよう、よりよい教育環境の整備に向けた取り組みの充実 教育関係職員の研修及び教育に関する研究機関として、本市の現状に即した調査研究事業、教職員研究事業、教育相談事業、普及事業等を効果的に推進し、本市教育の学校教育情報の蓄積と発信に寄与する。
----	---

<b>主な取組</b> ① 長期教育研究員研修の充実 取組の内容： 直面している課題(小中の連続性・つなぎ、小中一貫教育校)を取り上げ、関係機関との連携・協力の下、教育活動の推進。及び研究員個々の教師力の向上を図る。 成果指標 研究員研修充実に向けた関係機関との連携 研究員受入数	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	屋我地ひるぎ学園開校に向けた教育課程編成に係る研究を前期(4月～9月末日)屋我地小学校、屋我地中学校から各1人の教諭が、領域「特別活動、総合的な学習の時間」の編成を行い、ひるぎ学園に開校に寄与した。				二見以北地域及び屋我地地域において、過疎化・児童生徒の減少により複式学級が生じた。その課題解消・教育環境の改善を図るため小中一貫教育を推進するにあたり、平成26年度より屋我地ひるぎ学園の教育課程編成に係る研究を行っている。					
	目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
	平成30年度	研究員研修充実に向けた関係機関との連携	平成28年度	研究員研修充実に向けた関係機関との連携	○屋我地ひるぎ学園開校に向けの理科と「特別な教科 道徳」の教育課程編成の研究 ○研究員2人を受け入れ、教育課程編成の研究 ○研究員個々の教師力向上に向けた研修の実施(学校教育課が主催する現職教員研修に参加)				研究員個々の研修意欲と屋我地小、屋我地中との連携が功を奏し研究成果をまとめることができた。	
	目標値	3機関 年2人	目標値	3機関 年2人					実施値	3機関 年2人
	② 適応指導教室の充実 取組の内容： 個々の児童生徒に適切な体験活動や学習活動の提供と支援の充実を図るとともに、保護者、現籍校、関係機関との連携を充実させ、学校復帰、進路指導の充実を図る。 成果指標 適応指導教室からの学校復帰 中学校3年生進路(就職)の実現率									
	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	11人の児童生徒が入所、現籍校と連携し学校復帰に向けた取り組みを中心に、体験活動、学習指導等を実施し、5人の生徒が上級の学校へ進学できたが、現籍校への学校復帰は完全にはできなかった。				児童生徒個々が不登校に至った要因が複雑で完全な学校復帰は難しく、学校、家庭、関係機関を児童生徒個々のニーズに対応できなかった。					
	目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
	平成30年度	適応指導教室からの学校復帰及び中学校3年生進路(就職)の実現	平成28年度	適応指導教室からの学校復帰及び中学校3年生進路(就職)の実現	○12人の児童生徒が入所通級し、3名が学校復帰できた。 ○体験活動の実施(カヌー体験、スポーツ交流会、渡嘉敷島自然体験等)の実施 ○学校復帰に向けた現籍校との連携 ○進路実現に向けた相談(中学校3年生4人中4人の生徒が高校へ進学:100%)				4人の生徒が高校へ進学できた。反省として児童生徒個々の評価のあり方	
目標値	30% 100%	目標値	30% 100%					実施値	25% 100%	
③ 教育相談室の充実 取組の内容： 児童生徒をはじめ、保護者及び教員の教育上の悩みについて積極的に相談に応じ、関係機関と連携をし、援助などの充実を図る。 成果指標 教育相談業務において支援に結びついた割合										
平成27年度現状				現状をもたらした原因						
来所相談、電話相談、訪問相談の件数が200件余あり、教育上の悩み等の相談に大きく寄与している。また、適応指導教室との連携で上級学校への進路の実現ができた生徒もいる。				平成4年度より教育相談員を配置。						
目標		目標		取組概要				成果及び反省点		
平成30年度	関係機関と連携し、保護者等の相談に対する援助の充実を図る。	平成28年度	関係機関と連携し、保護者等の相談に対する援助の充実を図る。	(相談内容とその援助内容) ・不登校についての相談や対応について:28件 主に学校、適応指導教室あけみお学級と連携し、その問題の解決にあたった。 ・いじめについて:13件 嫌なことを言われる。仲間はずれにされる。喧嘩になってしまい気まづくなって学校へ行けない等の相談。学校とつなぎ話し合いを持ったり、本人を勇気付けたりして解決に導いた。 ・学業について:15件 学習の遅れや学習についていけない等の相談。休みがちの児童については適応指導教室等へのつなぎを行った。 ・登校しぶり・学校への不満について:39件 ・その他:20件 発達の遅れ、しつけ等の相談				来所相談、電話相談:115件、訪問相談:7件合計122件の相談の実施、関係機関へのつなぎと保護者、学校等の援助・支援が充実した。		
目標値	100%	目標値	100%					実施値	100%(122件の相談)	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	A				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	目的の「より良い教育現場に向けた取組の充実」やあけみお学級、教育相談教室の充実が評価できる。 適応指導教室については、不登校生徒の100%進路実現はとても素晴らしいが、進学後の様子も可能なら追加報告してほしい。また、これからは、よりもっと緻密な関係機関との行動連携が臨まれる。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	B				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	研究所、それぞれの教室とも目標値は達成されているので評価できる。 ただ、指導教室・相談室ともに必要としている子ども及び家庭はまだ数多く、教育相談に対する支援を増やす必要がある。 長期研究員研修は学校現場とどう連携した研究であるのかも重要である。目標や取組概要にその項目もつけてはどうか。							

具体的施策名	学力向上推進事業の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	1	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(1)	学力向上推進事業の充実

目的 児童生徒に「生きる力」を育み、確かな学力を身に付けさせるため、学力向上に向けた取り組みの充実を図る。

① 学力向上推進委員会の充実		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容: 学校・家庭・地域ぐるみで学力向上に取り組むために、基本的な生活習慣や学習規律について、幼小中共同実践事項を掲げ、学校・家庭・地域が連携した取組を行う。		保幼小中の連携は進んでいるが、家庭・地域の取組の進捗が緩やかである。		保護者や地域の生活習慣づくりに向けた意識高揚には、地域ぐるみでの活動が必要である。	
成果指標	地域教育懇談会への参加者	平成30年度 目標 家庭・地域での生活習慣形成への意識を高める。 目標値 1,300人	平成28年度 目標 地域教育懇談会への参加者増を目指す。 目標値 1,000人	取組概要 地域教育懇談会への参加者1,190人 総会2回、運営委員会2回、部会10回(3部会で)	成果及び反省点 台風の影響での中止もあり、目標値に届かなかった。予備日の設定が必要。 実施値 1,190人
② 学習支援ボランティアの配置		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容:「名桜大学と北部11市町村教育委員会の連携に関する協定書」に基づき、「名護市学習支援教室びゅあ」で学習支援にあたる学生への報償費支給。		学習支援にあたる名桜大学生へ1人1回1,000円の報償費を支給。H25年度延べ710人、H26年度延べ748人、H27年度延べ688人配置。		平成25年5月「名護市学習支援教室びゅあ」が名桜大学教職講義室に開校。周知等により目標参加者数の確保ができていない。	
成果指標	「びゅあ」学生ボランティア参加人数(延べ) 大北小学習支援への報償金執行率 子育て支援塾への報償金執行率 学習支援教室への参加中学生数(延べ) 参加生徒の高等学校等進学率	平成30年度 目標 報償費執行率の増により充実を図る。参加人数の増を図る。進学率の向上を図る。 目標値 1,200人 100% 100% 1,600人 100%	平成28年度 目標 報償費執行率の増により充実を図る。参加人数の増を図る。進学率の向上を図る。 目標値 1,300人 80% 80% 1,500人 100%	取組概要 要保護及び準要保護世帯の中学生を対象に「びゅあ」への参加生徒を募集 H27年度 登録中学生数=6月時点53人、最終登録者数=111人、延べ参加人数1,346人 学習支援ボランティア(名桜大生)への報償費支給。 子育て支援塾学生ボランティア(名桜大生)への報償費支給。 学生ボランティア登録者数20人 参加生徒の高等学校等進学者(15人中15人:100%)	成果及び反省点 関係機関との連携(社会福祉課保護係、社会教育課) 実施値 688人 0% 80% 1,500人 100.00%
③ 読書活動の充実		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容:児童生徒の読書活動の充実を図るため、14小学校(分校を含む)、8中学校へ在籍児童生徒数に応じ、図書購入費を配当。図書購入費の執行状況管理及び除籍図書の承認業務を実施。学校図書館司書の連携・資質向上を図る研修会の開催。		小学校図書購入費=5,149千円 中学校図書購入費=4,696千円 ・学校図書館司書研修会の開催(毎月第3火曜日の午後を基本開催日としている。)		・例年、名護市校長会からの要望事項として、図書購入費の増額が求められている。 ・各小・中学校に配置されている学校図書館司書は、1人区の職種であることから司書間の連携、資質向上を図る研修会が必要である。	
成果指標	小学校図書購入費の執行率 中学校図書購入費の執行率 図書購入費の予算増(前年度比) 学校図書館司書研修会の開催	平成30年度 目標 図書購入費執行100%を達成し、学校図書の充実を図る。 目標値 100% 100% 1% 12回/年	平成28年度 目標 図書購入費執行100%を達成し、学校図書の充実を図る。 目標値 100% 100% 1% 12回/年	取組概要 ・児童生徒の読書活動の推進に資するため、学校図書購入費については①学校割②学級割③児童生徒数割の三つを積み上げ、各学校規模に応じた予算配当を行っている。 平成26年度 小学校=4,703千円、中学校=4,467千円 合計=9,170千円 平成27年度 小学校=5,149千円、中学校=4,696千円 合計=9,845千円 ・毎月1回、学校図書館司書研修会を開催し、司書間の情報共有・連携を図るとともに資質向上を図るため、毎月テーマを定めた研修会を実施。	成果及び反省点 「学校図書館図書標準の達成状況」及び現状の実態把握 実施値 99.98% 99.98% 1.07% 12回/年
④ 授業力向上に向けた取組の充実		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容:平成25年度から導入された学校教育特任アドバイザーについて、教育委員会主催の研究会での活用や各校の校内研究等への派遣を通して、教員の授業力向上を支援する。また、教師の授業力向上を図るため研修や授業を行い、文科省調査官等を招へいした講演会等を実施する。また、各種調査からみられる児童生徒の実態を把握し、授業改善の充実を図る。		学校特任アドバイザーによる研修会での講話や校内研修等での助言への評価は非常に高く、教職員の意欲や授業力向上に繋がっている。また、各種研修会等は、教員の意欲向上や授業力向上に繋がっている。		教職員の資質向上は教育という活動の性質上、常に継続して行う必要がある。	
成果指標	授業が「わかる」子どもの率(小) 授業が「わかる」子どもの率(中) 全国学力調査の県平均以上達成校数(小) 全国学力調査の県平均以上達成校数(中)	平成30年度 目標 研修会での講話、学校訪問での助言機会の確保。授業が「分かる」と回答する子どもの数(全校学習状況調査)研修会の効果的な計画と実施 目標値 国82.0 算82.0 国75.0 数72.0 全校 全校	平成28年度 目標 研修会での講話、学校訪問での助言機会の確保・授業が「分かる」と回答する子どもの数(全校学習状況調査)研修会の効果的な計画と実施 目標値 国80.0 算81.0 国68.0 数68.0 国4校 算4校 国3校 数2校	取組概要 (学校特任アドバイザーによる取組) ・各種研修会での講話(3回/220人) ・校内研修での講話・授業参観・授業リフレクション(51回/180人) (各種教科等研修会の取組) ・市教科主任等研修会(1回/34人) ・市道徳・特活研修会(4回/250人) ・市教育講演会(小中学校全教諭対象)(1回/390人) ・情報教育研修会(1回/20人) ・市教科研修会・ミドルリーダー研修会(文科省調査官招聘)(2回/120人)	成果及び反省点 各種研修会については、効果的な実施について、県や国頭教育事務所研修との調整が必要。 実施値 国76.6 算74.5 国68.0 数63.9 国4校 算3校 国2校 数3校
⑤ 学習指導支援者の配置		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容: 算数・数学の授業の補助。放課後及び長期休業日等における補習指導。教材教具の作成等		12校へ12人を配置		人材確保のため給与を見直したため給与増の分人数が減った	
成果指標	全国学力調査の県平均以上達成校数(小) 全国学力調査の県平均以上達成校数(中) 「成果があった」と内容報告があった学校	平成30年度 目標 全学校へ配置し個に応じたきめ細かい指導の充実を図る。 目標値 全校 全校 100%	平成27年度 目標 12校へ配置し個に応じたきめ細かい指導の充実を図る。 目標値 算4校 数2校 100%	取組概要 各学校の現状を考慮し、学習面において課題の大きな学校を優先し学習指導支援者12人を配置した。算数・数学の授業の補助。放課後及び長期休業日等における補習指導。教材教具の作成。	成果及び反省点 給与を見直したため年度当初から予算確保人数を配置することができたが目標人数は減となった 実施値 算4校 数1校 100%
⑥ 市研究指定の充実		平成27年度現状		現状をもたらした原因	
取組の内容:特色ある学校づくりを進めることで、学力向上につながるために市研究指定校を設置する。市内教諭がグループを組み、小中の教諭が連携して研究を進めることで、小中の連携を深め、指導力向上につなげる。		各校やグループでの研究には一定の成果があるが、研究成果の他校への還元が十分でない		研究成果の周知不足	
成果指標	研修の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(小) 研修の成果を積極的に教育活動に反映させる学校(中) 指定校・指定グループ数	平成30年度 目標 研究の成果を反映させる学校数の増 目標値 50% 40% 9校(グループ)	平成28年度 目標 研究の成果を反映させる学校数の増 目標値 40% 20% 9校(グループ)	取組概要 ①小中一貫教育特別指定「屋我地ひるぎ学園」年間教育計画の作成 ②学校指定4校(羽地中学校・東江中学校・名護小学校・緑風学園) ③グループ指定:3グループ(国語、算数・数学、書写、理科) (内:国語、算数・数学は小中教諭が連携して研究を進めた) ④講演会・発表会:計4回(参加者計230人)	成果及び反省点 指定研究の成果の還元(グループ研究のリーフレット作成、研究成果をHP掲載) 実施値 100%(H29年2月) 100%(H29年2月) 9校(グループ)

主な取組

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B	B	B	B	B	B
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	学力向上に向けた取組は評価できるが、沖縄県一を目指すには、何が必要で、何が不足なのか、学校、家庭、地域が再検討の余地がある。これまでの地域懇談会の在り方が、ここ数年間問われている。毎年、保護者の参加が少ないので、会の持ち方(内容)を考える必要があり、利用者の立場で見直しされると素晴らしいと思う。学力向上に向け、教師の資質向上は当然だが、家庭学習の習慣化については保護者との連携協力が不可欠。学力向上の主要テーマになっている。予算を含め、図書の充実が不可欠である。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	A	B	B	B	A	
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	学力向上に向けた様々な取り組みは評価できるが、既存の地域懇談会などは見直しの時期にきていると考える。地域とのつながりはとても大切であるが、形式的なものでなく日常的なつながりをどう構築するか、仕組みの点検が求められる。「学力向上推進委員会の充実」の取組は、総務課の取組である「教育の日」「早寝早起き朝ごはん」「630運動」と運動・連携し、地域や市全体へスローガンを周知・浸透させることにより意識の高揚を図れるのではないかと。						

具体的施策名	ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(2)	ICT(情報通信技術)を活用した教育の推進

目的	ICT(情報通信技術)を活用した効果的・効率的な「分かる授業」実践を行うと共に、教育の情報化を図り教師の負担軽減及び教師や児童生徒のICT活用能力を高め学力向上を図る。
----	--

主な取組	① ICT教育環境の整備 取組の内容: ICT機器を活用した効果的・効率的な授業の実践により児童生徒の学習意欲、ひいては学力向上を図るため、各学校の実態に応じたICT機器の整備、教育の情報化を進める。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		・小学校教科書改訂に伴うデジタル教科書の購入 ・緑風学園及び屋我地小・中、大宮中へのICT機器の整備 ・小学校及び中学校における教育の情報化の推進を図るための年次的な計画が策定されていない。				・21世紀を生きる子どもたちに求められる力の一つに「情報活用能力」が挙げられる。情報通信技術を効果的に活用した分かりやすく深まる授業の実践のため、ICT環境整備が求められている。 ・計画の策定については、策定を行うに当たっての組織の検討などに時間を要している。							
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
	成果指標	全22校校に設置		4校に設置		平成27年度小学校使用教科用図書(教科書)の改訂に伴い、市内13小学校の4~6年生を対象とした主要教科①国語②算数③理科④社会⑤地図のデジタル教科書を購入・整備を目的とした学習環境の整備。 緑風学園 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地小 タブレット端末20台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 屋我地中 タブレット端末21台、電子黒板2台、一部無線LANの整備 大宮中 書画カメラ4台、ユニット型電子黒板4台を整備		小中一貫校に配置できた					
		平成30年度	目標値	21校/21校	平成28年度					目標値	21校/21校	実施値	4校/21校
			目標値	21校/21校						目標値	4校/21校		4校/21校
	実物投影、プロジェクターの設置		策定済(H28)		—		—						
	無線LAN、タブレットの整備		—		—		—						
	名護市教育情報化推進計画(仮)の策定		—		—		—						
	② ICTを活用した授業の充実 取組の内容: 市情報研修会でICTを活用した授業研究などを行い、教師及び児童生徒のICT活用能力を高め学力向上を図ります。	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
		・タブレットPC,電子黒板、デジタル教科書を利用した授業力向上を図るため年に3回のICTを利用した公開授業を実施。				授業での活用力向上を目指して研修会を実施している。							
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
成果指標	デジタル教科書の活用率		デジタル教科書の活用率		情報研修会1回 内容 ホームページの作成、タブレット、電子黒板の利用。情報モラルと学校訪問の際のデジタル教科書活用状況の確認。		デジタル教科書及びICT機器の活用に関する検証。						
	平成30年度	目標値	100%	平成28年度					目標値	70%	実施値	87.90%	
		目標値	100%						目標値	70%		78.00%	
デジタル教科書の活用率(小学校)		—		—		—							
デジタル教科書の活用率(中学校)		—		—		—							
③ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因								
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点						
成果指標	目標値		目標値				実施値						
	—		—										
	—		—										
④ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因								
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点						
成果指標	目標値		目標値				実施値						
	—		—										
	—		—										

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	実物投影機を全教室に導入できたのは良かった。ICT機器の配置は充実してきたので、これを日々の教育実践で活用し、学力向上に繋がることを期待する。さらなる整備、活用に努めてほしい。教師の活用について充分でないと感じられる。そのため、児童生徒の活用能力の向上に繋がっていない。ICT教育(特にタブレット)の長時間使用による身体への影響も気になるので調査してほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	タブレットの配置、デジタル教科書の活用は目標値をクリアしている点は評価できる。活用の度合いもあまいので、実際のところの活用実態も、学校間または教員間で開きがないか確認していただきたい。今後は一貫校以外の学校での推進を期待したい。今後は、導入した機器を有効に使うための支援も求められる。							

具体的施策名	国際社会に対応できる人材の育成	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(3)	国際社会に対応できる人材の育成

目的 グローバル化が進展する現代において、学校教育においても新たな英語教育の在り方が求められている。英語学習や異文化理解をとおし幅広い視野を持ち、異なる価値観を理解し互いに尊重し合える人材育成を目指す。

① 中学生海外短期留学事業	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 市内全中学生を対象に募集を行い、選考試験により概ね12人を選考し、夏休み3週間程度をハワイ州ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ派遣している。	派遣者の選考試験(筆記試験、面接)を1日で行っていたが、日程が厳しく面接に十分な時間が取れなかった。				応募者が増になったことや、学校での授業時数確保に配慮し、選考試験を1日で実施したため。		
成果指標 本事業への応募者数 派遣者数 研修内容について良いと答えた生徒(率)	平成30年度	目標 本市の将来を担う国際感覚豊かな人材育成を図る	平成28年度	目標 本市の将来を担う国際感覚豊かな人材育成を図る	取組概要 35人の応募者から選考試験を実施し、夏休み8/2~8/23の約3週間名護市の姉妹都市ハワイ郡ヒロ及びホノルルへ13人を派遣した。現地では、県人会との交流会、語学研修、週末のホームステイ、学校訪問(2校)、ハーリー大会への参加など、体験活動等を実施した。また、派遣者に対しては事前研修会8回、事後研修会4回を実施。帰国後は、帰国報告会と報告書による報告を行った、		成果及び反省点 他の自治体では実施していない研修内容が多く事前研修や現地で研修が充実してきた。	
		目標値 40人 12人 100%		目標値 40人 12人 100%		実施値 35 13人 100%		
② 小・中学校英語支援員の充実	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 各小中学校へ支援員を派遣し、小学校の外国語活動や中学校の英語の授業における指導補助、教材作成、各種コンテスト等への指導を行う。	ALT9人を市内小・中学校へ配置。小中一貫教育校は常勤で1人配置。中学校への配置が十分でない。				小学校に100%配置していることや小中一貫教育校へ(緑風・ひるぎ)へ常勤として配置しているため。		
成果指標 英語支援員(ALT)の派遣者数 ALTが児童の学習意欲向上に効果があると答えた小学校数 ALTが生徒の学習意欲向上、授業づくりに効果があると答えた中学校数	平成30年度	目標 授業の充実、児童生徒のコミュニケーション能力向上、異文化理解を図る。	平成28年度	目標 授業の充実、児童生徒のコミュニケーション能力向上、異文化理解を図る。	取組概要 ・市内小中学校へ小中英語支援員(ALT)10人を配置し、外国語活動、英語の授業、名護市短期留学研修会、各種コンテスト等の支援を行った。 ・月1回のALTミーティングを実施。 ・小中英語支援員・英語教育担当者研修会全6回を実施。 ・海外短期留学派遣事業事前・事後研修会への参加。		成果及び反省点 各種コンテストへの対応について、ALTを効果的に活用している。しかし、日頃の授業におけるALTの活用については課題がある。	
		目標値 16人 13校 8校		目標値 10人 13校 —		実施値 10人 13校 8校		
③ 英語検定料一部補助	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 小中一貫教育校(緑風学園、屋我地ひるぎ学園)を除く6校の全中学生を対象に英検の一部補助(年に1度受験級の半額補助)を実施。	学校の在籍数に応じて同じ割合で予算を分配したが、学校間で活用率に開きがある。				地域から検定料に対する補助金交付のある学校については活用率が低い。また、学校間で活用に対する意識の違いや取組の差が伺える。		
成果指標 英検料金補助金活用率 英検合格率(補助金活用分)	平成30年度	目標 英検受験の機会拡充、英語学習に対する意欲向上を図る。	平成28年度	目標 英検受験の機会拡充、英語学習に対する意欲向上を図る。	取組概要 4~6月助成金の申請・交付 6月第1回英語検定実施、10月第2回英語検定実施、1月第3回英語検定実施 2月実績報告、補助金交付決定額の通知		成果及び反省点 昨年度に比べ活用率は向上しているものの十分ではない。今後は学校訪問の際など定期的に担当者への声かけを行う。	
		目標値 90% 60%		目標値 75% 50%		実施値 76% 44%		
④ 小・中学校英語体験学習	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 市内全中学生を対象に募集を行い、小中それぞれ概ね36人を決定し、さまざまな英語活動や外国人との交流を行う。英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味・関心を高める。	小学生については応募者が多かった。学校間の参加者の偏りがあったため、対象者により公平であるために募集方法の検討が必要。 中学生については募集人員に対して応募者が少なかった。				募集方法が応募先着となっていたため、学校または学級担任の対応の差により保護者への周知が遅れたため。 中学校は部活動の大会との重なり、中3にとっては受験との関わりから応募者数が少なかったと考えられる。		
成果指標 本事業への参加者数(小学校) 本事業への参加者数(中学校)	平成30年度	目標 英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味・関心を高める。	平成28年度	目標 英語によるコミュニケーションへの積極的な態度と英語に対する興味・関心を高める。	取組概要 ・小学生:平成29年2月18日(土)10:00~16:00 名護青少年の家にて実施 ・中学生:平成29年2月4日(土)10:00~16:00 名護青少年の家にて実施 英語によるさまざまな活動(ゲーム、劇鑑賞、寸劇作り等)とおして、外国人と交流する。		成果及び反省点 小学生の応募者が200人を超えたため、当日の参加人員を増やしたり、中学校の実施日に10人の6年生を受け付けた。	
		目標値 36人 36人		目標値 36人 30人		実施値 50人 39人		
⑤ 英検ジュニアの推進	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容: 小学校において外国語活動が実施されている5、6年生を対象に5年生ブロンズテスト、6年生シルバーテストを2月に実施している。児童の英語学習に対する興味・関心を高め、中学校英語への円滑な接続を図ると共に、客観的な評価を行うことにより指導の工夫改善に資する。	テスト結果、分析がその後の授業改善に活かされているか点検することができていない。				学校訪問、授業参観が十分でないため。		
成果指標 ブロンズテスト名護市正答率 シルバーテスト名護市正答率	平成30年度	目標 5、6年生において実施しているテストの正答率の向上	平成28年度	目標 5、6年生において実施しているテストの正答率の向上	取組概要 H29、2月担当者を対象に説明会の実施 2月1日~2月10日 テスト実施 H28、3月 各学校へ結果通知		成果及び反省点 ブロンズ、シルバーとも目標を達成した教師間の差はあるが、授業改善が少しずつすすんでいると考える。	
		目標値 85% 75%		目標値 80% 70%		実施値 80% 73%		

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	B	B	B	B		
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	短期留学事業は大きな成果があるので、現在の12名から20名程度まで増やして実施してはどうか。短期留学へ参加した生徒は帰国後の報告会や報告書だけでなく、各学校のリーダーとして活動できる場があると、体験してきたことが活かせるのではないかと。英語教科化へ向け、ALTをもっと活用すべきである。英検料補助費は100%達成してほしい。検定料の補助、英語教科化、小学校から中学校等の英語の「つなぎ」を考慮してほしい。小学校の体験活動は有効と思われる。もっと増やす必要がある。						
外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	A	B	A	B		
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	国際化への対応もそれぞれの事業で目標通り事業が実施されていることは評価できる。英語教育に係る事業が充実しているが、取組については、学校間に差があるのでその指導にも配慮していただきたい。						

主な取組

具体的施策名	キャリア教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(4)	キャリア教育の充実

目的	子ども達が「自己有用感」を伴った「自己肯定感」を育み、将来、社会の中で自分の役割を果たし、自ら自分らしい生き方を実現するための力を付けさせる教育活動の展開。
----	--

主な取組	① キャリア教育の充実 取組の内容： キャリア教育を総合的(学校・家庭・地域・企業・職能団・NPO等との連携)に推進するために研修会を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		キャリア教育研修会(地域連携の研究会)の実施				県の補助事業「グッジョブ連携協議会」が推進していた「地域連携の研究会」を継続させるべく、学校教育課のキャリア教育研修会の中に取り込んだ。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る		横軸(学校・企業・行政)、縦軸(小・中・高・大)が連携して発達段階に応じた取組の構造化を図る		キャリア教育研修会(地域連携の研究会)参加者		当初の年間計画にはなかったが、開催した結果、参加者から「意義のある会なので継続して欲しい」という声が多数あった			
		平成28年度		平成28年度		幼稚園教諭、小・中キャリア教育担当、市内3高校進路担当、名桜大学准教授・学生課、沖縄県中小企業家同友会北部支部長、地域若者サポートステーションなご、企業、商工観光課、国頭教育事務所、学校教育課。1回目42名、2回目35名		2回			
		成果指標	年2回の研修会の実施	目標値	2回	実施値					
		② 産学官連携によるキャリア教育の支援 取組の内容： 中学校職場体験、小学校ジョブシャドウイングの実施をグッジョブ連携協議会(産業部・商工観光課・市内企業)と連携して行った。 博物館や特定非営利活動法人NDA等と連携して地域教育資源を活用した授業を展開		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		キャリア教育コーディネーターを2人配置し、市内全小学校でジョブシャドウイング、中学校で職場体験のコーディネートができた。				県補助事業「地域型就業意識向上支援事業」が終了したため「グッジョブ連携協議会」の取組を学校教育課にキャリア教育コーディネーターを設置し継続、産学官の連携を強化するため					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		産学官連携のキャリア教育の充実を図る		産学官連携のキャリア教育の充実を図る		・職場体験の実施(全中学校で実施・計715人) ・ジョブシャドウイングの実施(全小学校で実施・計638人) ・ジョブシャドウイング及び職場体験に係る事前学習(職業人講話。マナー等)の支援		職場体験とジョブシャドウイングを産学官連携で行うことができた。地域教育資源を活用した授業をもっと拡大させる。			
		成果指標	小学校ジョブシャドウイングの実施校	平成30年度	13校	平成28年度	13校	実施値	13校		
			グッジョブ連携協議会と連携した職場体験実施校	目標値	8校	目標値	8校	実施値	8校		
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
成果指標		平成30年度		平成28年度		実施値					
④		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
成果指標		平成30年度		平成28年度		実施値					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	職場体験の実施をもって、キャリア教育を行ったものとしてみなすことなく、その後の進路選択に繋がって行くと良い。メンター側の意識をどう高めるか。重要な役割であり、キャリア教育の充実に期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	「地域連携の研究会」を実施できた意義は大きい。指導者の意識向上・連携を図ることにより、児童生徒の指導に活きる。仕組みとして定着してきた感があるので、評価できる一方で、学校現場やコーディネーターにも慣れが出てきて、本来の目的にかなっているか点検が望まれる。そして新たな取り組みにもチャレンジしてもらいたい。							

具体的施策名	幼児教育の充実	主管課	学校教育課、 (プロジェクトチーム)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(5)	幼児教育の充実

目的	現在の社会情勢や本市の幼稚園教育の現状と課題を踏まえ、市立幼稚園における幼児教育及び子育て支援の充実を図る。
----	--

主な取組	① 幼稚園指導主事の配置 取組の内容: 幼稚園指導主事1人を配置し、計画的な研修の実施、園内研修や研究保育、10年経験者研修等における指導助言により、幼稚園教諭の資質向上を図る。また、保幼小連携体制の構築や接続期カリキュラムを活用することで、幼児期における学びの基礎力を育むとともに、小学校への円滑な移行を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		学びの基礎力育成に向けて、アプローチカリキュラムやスタートカリキュラムを作成した。それを活用した保育や教育の充実を図り、保幼小合同研修会や交流活動等に取り組んだ。				平成27年4月1日時点で、公立幼稚園への就園率が44.6%となっている。公立幼稚園以外の就学前施設から小学校へ入学する児童が増加していることから、小学校への円滑な接続及び「小1プロブレム」の解消を図るため、保幼小の積極的な連携が求められている。			
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点
			研修内容の充実			研修内容の充実			
	目標値		6回 3回 —	目標値		6回 3回 3回			
	成果指標	教頭・教諭研修会の開催		園長・教頭・教諭研修会の開催		保幼小連携協議会の開催		実施値	6回 3回 3回
	② 幼児教育環境の充実 取組の内容: 「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえた基本方針に基づき、望ましい幼児教育の実現に向けた取組の実施。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		「名護市立幼稚園の今後の在り方検討懇話会」の提言を踏まえ方針の策定に向けて取り組んでいる。				・名護市立幼稚園においては主に5歳児の教育・保育を行っている。 ・園児数が10人以下となっている園が6園ある(方針策定時) ・5歳児の約半数が公立幼稚園以外の就学前施設に通っている。			
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点
			方針に基づいた望ましい幼児教育環境の実現			「名護市立幼稚園の今後の在り方について(方針)」の実現			
	目標値		— 1園 100%	目標値		策定 1園 —			
	成果指標	方針の策定		公立幼稚園における複数年教育・保育の実施園		適正規模(1学級20人~30人)での教育・保育の実施率		実施値	策定 0園 —
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:								
	平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
		目標値			目標値				
成果指標							実施値		
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	取組の内容:								
	平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
		目標値			目標値				
成果指標							実施値		

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	60%以上が保育園や私立幼稚園等から、小学校入学する現状から、「小1プロブレム」解消を図るための、保幼小の接続カリキュラムの積極的な活用を図り、保幼小連携強化に期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	学びの基礎力育成と、小学校への円滑な接続については、これまで実践で保幼小の連携が充実・定着してきた。幼児教育は制度変化などがあり、従来の取り組みとは違った取り組みが求められていて、事業としては達成していると思われる。しかし、認定こども園、学内学童など今日的な課題は多いので柔軟な今後取り組みが求められる。公立幼稚園の今後の在り方については、現状や今後を見据えて慎重に対応する必要がある。							

具体的施策名	教育関係機関等との連携	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	2	確かな学力を身に付けさせる教育の推進
					具体的施策	(6)	教育関係機関等との連携

目的	児童生徒の科学に対する興味・関心を高め科学的な思考力の向上を図るため、教育関係機関等と連携し理科教育の充実に資する。
----	--

主な取組	① 北部地区における教育関係機関等との連携 取組の内容: ○教育関係機関と連携した自然体験学習等の実施 ○冲高専と連携した中学校におけるキャリア教育の実施 ○「なごサイエンスフェスタ」の実施 ○各小中学校における出前授業等の実施	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		目標		目標		取組概要				成果及び反省点		
		平成30年度	教育関係機関と連携し、児童生徒を対象とした体験事業等の拡充と定着	平成28年度	関係機関と連携した理科教育等にかかる体験学習、出前授業等の拡充	<ul style="list-style-type: none"> <li>「夏休み自然体験学習教室」(GODAC、昆虫採集)2件の実施(71人)</li> <li>沖縄工業高等専門学校における体験授業(中学校1校/125人)</li> <li>「なごサイエンスフェスタ2017」(1月)の実施。(北部地区及び県内関係機関参画、24団体、ボランティア47人)入場数(1,893人)</li> <li>出前授業の実施(小学校における理科学習)(3校/60人)</li> </ul>				<ul style="list-style-type: none"> <li>体験学習、出前授業等を計画通り実施。</li> <li>なごサイエンスフェスタを継続時に実施できた。</li> <li>小中学校における理科クラブ等の設置増及び取組の定着(H28、1校設置増)</li> </ul>		
		成果指標	科学関係機関等と連携した取組事業の件数	目標値	8件	目標値	6件	実施値	7件			
	②		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:		目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
	平成30年度		平成28年度									
	成果指標		目標値		目標値		実施値					
	③		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:		目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
	平成30年度		平成28年度									
	成果指標		目標値		目標値		実施値					
	④		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:		目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
	平成30年度		平成28年度									
	成果指標		目標値		目標値		実施値					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	教育課程編成時からの調整が不可欠である。高専と連携の中学校キャリア教育の実施だけでなく、市内の工業、農業の専門高校の活用も検討してはどうか。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	様々な機関と連携して、事業を行っている点は評価できる。予算の都合もあると思われるが、名護市として主体的に関係機関と継続して連携できる仕組みの検討が必要である。							

具体的施策名	心豊かな人間性を育む教育の推進	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(1)	心豊かな人間性を育む教育の推進

目的	児童生徒一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高める教育活動を推進する。
----	---

主な取組	① 情報モラル教育の充実 取組の内容: 情報化社会で情報を利用した適正な活動を行うために、もともとなる考え方や態度を養うための情報モラルに関する児童生徒・保護者向け講演会を各学校で行えるようにする。また、児童生徒の情報化社会における行動や状況を把握し、情報モラル教育に活かしていくために定期的にアンケートやヒアリングを行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		情報モラルに関する研修を行うことで、学校間の指導の統一性を図っている。また、情報モラルについての授業研究会を行い、指導方法について研究を行った。				児童生徒が、基本的な情報モラルについて理解し、情報端末を利用したコミュニケーションの取り方などの情報教育の必要性を認識し、適切な対応を促すため				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平成30年度	研修内容の充実	平成28年度	研修内容の充実	各学校の取り組みで情報モラルについてインターネットの利用やSNSトラブルについて事例を紹介し、対応の方法について学ぶなど講演や授業を行った。	講演会の予算の確保	実施値	1回
	目標値	市内全小・中学校1回以上		情報担当者向け1回		0回				
		情報モラルに関する研修会または講演会の実施	2回					0回		
		情報モラルに関するアンケート・ヒアリングの実施								
	② 伝統文化の尊重 取組の内容: しまくとぅばの普及促進につながる活動を推進する 中学校音楽科において三線指導に力を入れる	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		・しまくとぅばの普及促進に関する活動の周知。 ・研修会等において、挨拶などしまくとぅばの使用を奨励。 ・三線指導については、取組なし。				・沖縄県による「しまくとぅばの日に関する条例」制定や「しまくとぅば普及推進計画」の策定により、県内各地において世代を超えて受け継がれてきた「しまくとぅば」の普及推進が高まっている。 ・中学校学習指導要領の「音楽編」において、「郷土の伝統音楽のよさを味わうことができるよう工夫すること」と明記されている。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平成30年度	伝統文化に触れる機会を増やしアイデンティティを高める	平成28年度	取組及び整備の実施状況	しまくとぅばの普及促進に関する取組は、各小・中学校の主体的な取組に委ねられているが、教育委員会として沖縄県の取組やイベントなど、周知に努めた。 ・三線指導については、取組なし。 ・研修会等における挨拶などでしまくとぅばの使用を行った。	・沖縄県発行『しまくとぅば読本』の活用	実施値	21校
	目標値	21校		21校						
		校内放送・運動会等行事におけるしまくとぅばの使用							21校	
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
成果指標		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標値	平成28年度	目標値		実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標値	平成28年度	目標値		実施値			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	懇話会委員から指摘があった通り、施策名からすると主な取組みとして内容に乏しさを感じる。(平和、いじめ等を加える) 情報モラル教育は、インターネットの利用やSNSトラブルを学ぶ講演や授業をもっと増やし、これらの危険性を話し合い、徹底的に指導する必要がある。昨今の情報化時代では児童生徒だけでなく、保護者も含めて指導回数を増やす必要がある。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	情報モラルについては研修や講演会だけでは対応できない課題も発生しているため、現場の事情に即した対応も必要になってくると思われる。 専門性があり、かつ変化の速い情報通信機の活用は今後は一層踏み込んだ取組が必要と思われる。 豊かな心を育むために、他の視点からの方策の検討をしていただきたい。						

具体的施策名	人権教育や平和学習の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(2)	人権教育や平和学習の充実

目的	児童生徒が自他の生命を大切にし、人格を尊重し、互いに個性を認め合う豊かな人間性を育む教育活動の奨励。
----	--

主な取組	① 学校の教育活動を通じて行われる人権教育や平和学習の充実 取組の内容: 「人権の日」に合わせた人権教育の充実を奨励する。 文化課市史編係の取組や地域人材活用を図り指導が行われるよう奨励する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		各学校において月に1回人権の日を設け、校内放送や学年、学級の取り組みで人権について意識を啓発している				人権の日を設けることで、人間らしく生きることの大切さについて考え、人権意識を高めることができる。			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度	人権教育の充実を図る	平成28年度	人権教育の充実を図る	月に1回の人権の日の実施 ・人権の日に旗を揚げる ・人権に関する作文を校内放送で流す。 ・学校通信などを通して周知する。	人権について取り組むことができた		
	成果指標	人権教育の取組校	目標値	21校	実施値		21校		
		平和教育の取組校	目標値	21校			21校		
		男女混合名簿使用校	目標値	21校		8校			
	②	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成28年度					
		成果指標	目標値		目標値		実施値		
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
		平成30年度		平成28年度					
成果指標		目標値		目標値		実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
	平成30年度		平成28年度						
	成果指標	目標値		目標値		実施値			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	人権、平和教育等について、学校側に対する、教育委員会主導の啓発活動も記載してはどうか。学校だけの取組ではなく、男女共同参画社会基本法、男女混合名簿等、人権擁護委員の活用も自然体で考えてはどうか。(県立高校では男女混合名簿は約10年ほど前から実施されている)「人権の日」の実施による成果はどうかを標記してほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B						
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	人権意識を育むには、児童生徒の心に響く人材の活用が効果的であるが、活用が図られたかが見えない。平和学習の活動量が多いが、人権教育に相当する内容の充実が求められる。							

具体的施策名	生徒指導の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(3)	生徒指導の充実

目的	不登校児童生徒を出さない積極的な生徒指導と不登校児童生徒への適切な対応
----	-------------------------------------

主な取組	① 「名護市生徒指導連絡会」及び「名護市不登校児童生徒連絡会」の充実 「各関係機関・団体が連携した生徒指導を充実するため、各連絡協議会を実施し、情報連携・行動連携を図り一人一人の児童生徒理解に基づく指導体制の構築に努める。」	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		情報連携、行動連携が円滑に行われるよう児童生徒理解についての連絡や教師の指導力向上に係る研修を行った。				関係機関との支援会議などの開催とその後の指導への活かし方						
		成果指標	目標		目標		取組概要	成果及び反省点				
			平成30年度	不登校児童生徒数前年度比一割減		不登校児童生徒数前年度比一割減		生徒指導連絡協議会及び不登校児童生徒連絡会を開催し情報の共有や指導力向上を図ると共に関係機関との連携を密にして対応した。(生徒指導連絡協議会)計4回。関係機関の紹介、事例研究、講演会、事例発表(不登校児童生徒連絡会)計2回。名護市の不登校児童生徒の実態について、講演会、事例研究会	不登校児童生徒数が前年度より増加している。より緊密に連携し不登校児童生徒数の一割減を達成したい。			
				目標値	69人	目標値			69人	実施値	107人	
	50件				60件				59件			
	210件	210件			381件							
	いじめ認知後解消件数	210件	210件	360件								
	② 生徒指導支援者を中心とした不登校児童生徒への支援 「不登校及び不登校気味で特に個別の指導や相談を必要とする児童生徒に対応するため、教職員を補佐し、継続的な支援活動や様々な体験活動等を通じた個別指導を行う生徒指導支援者を派遣し、児童生徒の自己存在感を育み、自立するための支援体制を図る。」	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
		不登校及び不登校気味の児童生徒の個に応じた対応のために継続的な支援が必要				現在も情報や行動の連携を行っているが、個に応じた取り組みをより一層進める必要がある。						
		成果指標	目標		目標		取組概要	成果及び反省点				
			平成30年度	不登校児童生徒数前年度比一割減		不登校児童生徒数前年度比一割減		生徒指導支援者を7校に7人配置し、学校職員と連携して、登校支援や学校での居場所づくり、また問題行動等への対応を行った。また、学校の取り組みや支援者としての在り方について委員会と情報交換を行った。	不登校数が前年度より増加している。より緊密に連携し不登校児童生徒数の一割減を達成したい。			
目標値				69人	目標値	86人			実施値	107人		
③ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
	成果指標	目標		目標		取組概要	成果及び反省点					
		平成30年度	目標値		目標値		実施値					
④ 取組の内容:	平成27年度現状				現状をもたらした原因							
	成果指標	目標		目標		取組概要	成果及び反省点					
		平成30年度	目標値		目標値		実施値					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	不登校児、暴力行為、いじめ等が減少してない件は、調査方法の問題点とは別にして、今後の指導方法を強化する必要がある。早期発見・早期対応の充実のために、教師(支援者含む)の「気づき」の視点の確立・向上に努める必要がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	問題行動を起こす子供たちへの対応は支援員の配置など評価できる。目標値よりも数値は悪いが、これからも個別に難しい案件が増加することも予想され、学校側も地域や関係機関との信頼関係や連携体制の確立・強化が望まれる。							

具体的施策名	特別支援教育の充実	主管課	学校教育課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	I	より良い教育環境の形成
					個別目標	3	児童生徒理解に基づく教育の推進
					具体的施策	(4)	特別支援教育の充実

目的	多様な個性を持つ幼児児童生徒一人ひとりの学びの保障を目指し、支援体制の充実を図る。
----	---

主な取組	① 特別支援教育の充実 取組の内容:子ども一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援を行っていく。その際、共生社会の形成に向けて、障がい者の権利に基づくインクルーシブ教育(包摂:一人残らずすべての子どもをすくい上げる教育)システムの理念に基づきすすめていく。特に校内支援体制の充実をサポートし、教師の特別支援における資質向上をめざす。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		発達障がいやその傾向のある児童生徒の二次障がいの増加がみられる				個々の支援ニーズの把握が不十分であり、支援体制において学校間で差が生じている。					
		平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
			インクルーシブ教育の充実をめざし、全学校の支援体制を整え、全教職員の特別支援の理解と技術の向上を図る		インクルーシブ教育の充実をめざし、校内体制とコーディネーターの資質向上を行う		・年4回の特別支援関連研修会を実施 ・各学校の特別支援コーディネーターとの連絡会を9回(3校区×3回)実施し、全校の体制や課題及び校種間連携の状況について把握し、必要に応じて学校支援を行った。 ・該当児童生徒や保護者及び学級担任との面談を要請に応じて行った。		インクルーシブ教育について理解が深まった。		
			目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%	4回	90%	
		目標値	研修会4回	目標値	研修4回						
		目標値	90%	目標値	90%						
		成果指標	コーディネーターの配置・指導計画作成・支援会議								
				特別支援教育関連研修会							
				研修会事後アンケートにて役に立ったとした回答率							
② 特別支援教育支援者の配置及び充実 取組の内容:特別支援に該当する発達障がいやその傾向のある児童生徒の支援を行う支援者を配置し、主に安全管理、介助、学習のサポート、教職員と連携し、児童生徒の適応と自立を目指す。また、支援者の資質向上を目的とし、連絡会(6回)・研修会(6回)を行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	人員確保が困難であり、支援者の資質に差が見られる				応募者と条件(待遇)が一致せず、採用に至らないケースが多々ある。また年度途中の採用となり、研修受講回数に差があり、結果的に支援者の資質の差につながっていると思われる						
	平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		・各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置及びスキルアップを目指す。 ・研修会等実施後のアンケート結果「役に立った」90%をめざす。		各学校の要支援児童生徒の実態を把握し、適切な配置を目指す。 ・ニーズに応じた理論とスキルの獲得を目指した研修と子ども理解が深まる連絡会を実施する。		・17校に38名配置した。 ・年間を通して、学校と連携し、要支援児童生徒の実態を把握。さらに支援者申請書(学校より2月提出)を参考に、各学校の支援者配置数を課内会議にて決定する。ハローワークやホームページにて支援者を公募し、応募者の面接、決定、配置を行う。 ・連絡会6回を実施し、グループ協議を中心に児童生徒の支援ニーズと対応策について意見交換を重ねた。その結果、支援ニーズの理解と効果的な対応策が見いだされ、対象の児童生徒の改善につながったケースが多々あった。 ・毎回アンケートを実施し、支援者の要望に応える形で、研修会を実施することにより、児童生徒の支援ニーズに応える研修会が実施できたと思われる。その結果、児童生徒に改善がみられたと報告があった。(例:「暴力的な子どもが増加し、教室内でのケンカが多い」→研修:暴力に走る子どもの心理と対応→感想「対応策がわかり、実践した結果、児童が落ち着いた」)		・学校からの要請が多く、支援者の増員が必要と思われる。 ・支援方法の協議や研修を重ねることにより、支援者のスキルアップが見られ、対象児童生徒の改善につながった。			
		目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%	協議会6回	研修会6回	95%	
	目標値	連絡会6回	目標値	連絡会6回							
	目標値	研修会6回	目標値	研修会6回							
	成果指標	必要と判断した支援者配置数に対する配置率									
			連絡会年6回								
			研修会年6回								
		アンケートで役に立ったとした回答率									
③ 名護市教育支援委員会の充実 取組の内容:----- 各学校と連携した教育相談及び面談等の充実をめざす。 学校及び保護者の要請に応じ、適切な判定を出せるよう努める。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	・教育支援申請(208件)に対する対応率100% ・特別支援教育コーディネーター等研修会実施(年2回)				教育支援委員のきめ細やかな対応により、申請件数に対し100%対応できた。 市立幼・小・中の担当者のみならず、H27年度より保育園等の担当者へも研修を行うことができた。						
	平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		・教育相談等の充実を図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。		・教育相談等の充実を図り、学校・保護者の要請に応じた、適切な判定を目指す。		【名護市教育支援委員会条例 第2条(任務)】 委員会は、教育委員会の諮問に応じて、就学予定児等の障がいの種別、程度等を総合的に判断し、教育支援及びこれに係る必要な事項について調査又は審議を行い、及び答申する。 ・綿密且つ丁寧な教育相談・訪問診断等を行い、学校及び保護者の要請に応えるように努める。 ・学校、保護者及び教育支援委員会、三者の共通理解の充実を図り、より適切な判断を目指す。 ・年2回、特別支援教育コーディネーター等へ向けた研修会を行い、教育支援に対する知識・理解及び職能向上を図る。		・教育支援申請に100%対応できた。 ・通級指導教室の設置校が小中各1校(計2校)増えたが、依然通級設置を希望する声は多く、沖縄県への通級学級新規設置について継続要請を行う。			
		目標値	100%	目標値	100%	実施値	100%	2回			
	目標値	2回	目標値	2回							
	目標値		目標値								
	成果指標	教育支援申請に対する対応率									
			研修会の実施回数								

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A	A				
	総合評価 ( A・B・C・D )	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	インクルーシブ教育について理解が深まったとあるが、これからも全ての関係者の共通理解を持ち、コーディネーターの資質向上に努めてほしい。 個々への支援、教師の視点等の充実を図るため、校長を中心とした学校支援体制の確立が不可欠である。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A	A				
	総合評価 ( A・B・C・D )	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	インクルーシブ教育への理解が深まることにより教師と支援者の連携が図られる。今後もこのような研修会、連絡会の継続実施でさらなる資質向上を目指してほしい。							

具体的施策名	文化財の保全及び普及活用	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(1)	文化財の保全及び普及活用

目的	市内には国・県・市指定の文化財が84件ある。文化財の保全をするとともに、これを公開し積極的に取り組んでおり、市民が地域の伝統や文化に触れ、学ぶ機会を提供し、地域作りに結びつくことを目的としている。また、開発行為の及び恐れのある遺跡の範囲と性格を把握するために調査を実施し、開発調整に資することを目的とする。併せて、発掘調査により出土した遺物の整理や教育普及活動への考古資料の活用にも取り組む。
----	--

① 天然記念物「名護のひんぷんガジュマル」の保全 取組の内容:天然記念物「名護のひんぷんガジュマル」の保全に向けた維持管理の実施及び生育環境の整備	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	平成30年度	目標	平成28年度	目標	取組概要		成果及び反省点	
成果指標	樹木医による樹勢診断 フレームの点検 枝の剪定	ひんぷんガジュマルの保全 目標値 年1回	樹勢診断やフレーム点検等の維持管理処置 目標値 年1回	・樹木医による樹勢診断(1回) ・フレームの点検(1回) ・根鉢管理(3回)・枝の剪定(1回)	ひんぷんガジュマルの生育環境は維持管理処置により樹勢は良好である。長期的な環境整備は意見の集約及び具体的根拠の整理に時間を要している。		現在、樹勢が良好なことから維持管理においては効果が表れている。	
② 重要文化財「津嘉山酒造所施設」保存修理事業の推進 取組の内容:重要文化財「津嘉山酒造所施設」の保存修理	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	津嘉山酒造所施設の保存修理	津嘉山酒造所施設の保存修理 目標値 100%	主屋の保存修理 目標値 90%	・津嘉山酒造所施設の主屋の工事 (仮設工事、基礎工事、木工事、屋根工事、耐震補強、雑工事)	翹屋の解体工事及び保存修理が終了した。主屋の解体工事が終了。保存修理工事に取りかかる。		経年劣化や長年、風雨にさらされてきたことによる。事業の進捗については概ね良好である。	
③ 天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全 取組の内容:天然記念物「名護市嘉陽層の褶曲」の保全に向けた計画の策定	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	「名護市嘉陽層の褶曲」管理活用計画策定	「名護市嘉陽層の褶曲」管理活用計画策定 目標値 完成	事業実施に向けた現地調査 目標値 —	・干潮時及び満潮時における現状の確認調査(1回) ・授業による利用者への聞き取り調査(1回) ・現地調査及び写真測量	文化財めぐりや授業、グリーンツーリズムによる利用者が訪れている。保全や利用者の安全のため、管理計画が必要である。		以前より、授業に利用されていたが国指定文化財になったことにより、周知され、さらに多くの方が訪れるようになった。	
④ 埋蔵文化財の保全 取組の内容:開発行為に備えた埋蔵文化財の調査及び重要遺跡の調査	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	埋蔵文化財の保護	埋蔵文化財の保護 目標値	埋蔵文化財の保護 目標値	・開発に伴う文化財の有無等の調整(431件) ・埋蔵文化財の確認調査(3件) (キャンプ・シュワブ、愛楽園防潮堤、山入端リゾートホテル予定地、嘉陽上グシク)	開発に伴う調整やキャンプシュワブの確認調査等が多忙のため、名護グシクなどの重要遺跡の調査が進んでいない。		緊急な開発に伴う調整や複数の発掘調査を同時に行っているため。	
⑤ 豊年祭の支援 取組の内容:市内の一部の字で実施される豊年祭の調査及び記録する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	豊年祭の調査及び記録	豊年祭の継続的な記録及び調査 目標値 年3箇所	豊年祭の記録及び調査 目標値 年3箇所	・古我知区、屋我区、宮里区、城区の豊年祭調査及び記録 ・これまで調査及び記録した区(47区)	対象とした地域の豊年祭の調査・記録を実施した。		多くの箇所の調査を実施したいが、開催期日の重複などで調査箇所が限定される。	
⑥ 「55区すべてに指定文化財を！」を目標に、市内文化財の周知及び普及・活用の促進 取組の内容:市内55区のすべてに指定文化財を有できるように、調査を実施し、利害関係の諸手続が整い次第、指定へと結びつける。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	文化財の指定 文化財指定候補の調査 指定文化財がある区	55区すべてに指定文化財を有する。 目標値 年1件 年1件 32区	文化財の指定 目標値 年1件 年1件 30区	・文化財指定に関する調査 (のぞみの像、部間権現、護佐喜宮、我部の松) ※指定文化財がある区:55区中30区(55%)	名護小学校の「のぞみの像」の指定に向けて、調査や利害関係の調整を行ったが、指定までには至っていない。		調査に時間を要したことによる。	
⑦ 考古資料を活用した出前事業の実施 取組の内容:調査で出土された遺物を活用し、埋蔵文化財及び地域の歴史について普及・啓蒙を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
成果指標	考古資料を活用した文化財めぐり 講演会の実施 児童生徒や学校関係者への普及・啓蒙	考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供 目標値 年1回 年1回 年1回	考古資料を活用した地域づくり及び学習機会の提供 目標値 年1回 年1回 年1回	・名護グシクの資料展示会 ・文化財講演会及び現地見学会の実施(2日間・のべ80人) ・学校関係者の文化財めぐり(2回) ・ハンドブックの作成(1冊)	計画した事業については、実施することができたが、学校や地域からの文化財めぐり等について、さらなる普及・啓蒙が必要である。		学校・地域へ考古資料の活用について、予定していたが悪天候のため見合わせた事例があった。	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	A	A	B	B	A	B	B		A	A	B	A	A	A	A	A
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	市内の84箇所の文化財の保護・保全と市民への積極的な活用を期待する。区民への徹底した周知を図る必要がある。出前事業については、学校と教育課程編成時から取り組むと普及へ繋がるのではないかと感じる。								上記評価とした理由又は特記すべき事項	限られた人数でそれぞれの業務を確実にこなしていると評価できる。従来は保全はできているが活用が弱かったが、まだ改善の余地はあるもののとてもよくなっている印象である。ヒンブンガジュマルについては、課題にあがっている長期的な育成環境に整備計画をそろそろ期限を決めて取り組んでもいいのではないかと感じている。						
		A									A						

具体的施策名	博物館活動の充実	主管課	博物館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
				個別目標	1	文化の保全・活用	
				具体的施策	(2)	博物館活動の充実	

目的	「名護・山原の生活と自然」をテーマに、資料収集・保存、調査研究、教育普及活動を展開し、市民の学習・研究活動を支援し、文化活動の発展資する。
----	---

		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
① ぶりでい子ども博物館の充実	取組の内容: 市内の小学5年生を対象とし、地域に残る自然や歴史・民俗について、地域で生業や活動している市民が講師となり、体験する講座。自然観察や稲作、塩づくり、黒糖づくりなど、やんばるの特徴ある産業を昔ながらの道具を使ってその原理、原則を学ぶ	開始して29回目を迎え、自然観察や、昔ながらの道具を使った体験学習を実施。地域の魅力に気づき、新しい発見のきっかけとなるような講座を目指している。				現代の青少年は、自然体験や生活体験が不足していると言われており、様々な体験活動を経験させることにより、生きる力を育み、人材育成につながる。						
	成果指標	地域で体験できる講座数	平成30年度	目標	10回	平成28年度	目標	7回	取組概要	小学5、6年生を対象とし、味噌作り(2回)・海岸歩き・川歩き・貝殻でアクセサリー(2回)・山歩き・豆腐作りの講座を実施した(6講座、計8回)。参加者数は19人。(男6人:女13人)	成果及び反省点	計画通り講座を実施することができた。夏休み以降は参加率が落ちた。
	実施値								8回			
		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
② 企画展、特別展の開催や市民ニーズにあった講演会の実施	取組の内容: 名護・やんばるの地域の特徴や課題等を調査・研究し、企画展や特別展を開催する。展示会に合わせ図録を発刊し、広く市民に公開することで、地域をより深く理解する機会を創出。また、講演会等、市民ニーズに沿って開催する。	関係各課や団体と共催しながら、効率的に企画展・特別展を実施し、展示期間中に関連する講演会等を開催した。また、サイエンスフェスタ等のイベントでブース展示を行い、博物館をアピールすることができた。				ALLやんばる学びのまちプロジェクトに参加しており、サイエンスフェスタ等の情報を得ることができた。						
	成果指標	企画展・特別展・講演会回数	平成30年度	目標	10回	平成28年度	目標	10回	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;特別展&gt;</li> <li>・バードウィークだ！ミニ野鳥展(5/3～22、1220人)</li> <li>・写真展「やんばる生き物紀行」(9/29～10/9、671人)</li> <li>・名護親方・程順則展 一実母と岳母の厨子寄贈記念(10/28～11/13、895人)</li> <li>・重要文化財「津嘉山酒造所施設」修復工事写真展 津嘉山仕込み中～保存の会結成から修復工事まで～(2/17～3/5、680人)</li> <li>&lt;企画展&gt;</li> <li>・名護・やんばるの戦争展～71年前・6月・中学生～(6/10～26、1163人)</li> <li>・平良孝七写真展～塩屋・ウングミ～(8/12～28、750人)</li> <li>&lt;講演会・体験講座&gt;</li> <li>・ミニ野鳥展関連企画 野鳥観察会(名護岳・大宜味)(5/8、20人)</li> <li>・戦争展関連企画 田井等を歩く(6/25、20人)</li> <li>・平良孝七写真展関連企画 ギャラリートーク「ウングミと平良孝七を語る」(8/27、10人)</li> <li>・写真展「やんばる生き物紀行」関連企画 自然観察会(名護岳)(10/1・8、47人)</li> <li>・「名護親方・程順則展」関連企画 程順則ゆかりの地巡り(那覇市)(11/3、20人)</li> <li>・「名護親方・程順則展」関連企画 ギャラリートーク「世親墓と厨子からみる程順則の人生」(11/5、34人)</li> <li>・しめ縄づくり講座(12/25、15人)</li> <li>・重要文化財「津嘉山酒造所施設」修復工事写真展 関連企画「琉球建築の屋根 ワークショップ」(2/25、56人)</li> <li>&lt;イベント等&gt;</li> <li>・羽地大川鯉のぼりまつり 自然観察会(5/1 160人)</li> <li>・夏休み子ども自由研究in沖縄コンベンションセンター(7/30・31、1600人)</li> <li>・第4回名護市環境フェア(10/9、164人)</li> <li>・みんなあつまれ！ペットカーニバルinおきなわ2016(12/10・11、1410人)</li> <li>・なごサイエンスフェスタ2017(1/28、371人)</li> </ul>	成果及び反省点	目標値以上に実施することができた。
	実施値									19回		
		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
③ 学校学習支援活動の充実	取組の内容: 出前講座や博物館を使った授業など、学校の学習を支援する。	小学3年生の社会科の時間(昔の道具)ですべての小学校が博物館の見学をしている。学校で実施する出前授業(総合・理科)の需要が増えている。				教職員10年目研修等で博物館の学校教育での活用について意見交換しており、積極的に博物館を活用する学校が増えている。						
	成果指標	館内見学及び出前講座の回数	平成30年度	目標	40回	平成28年度	目標	40回	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>&lt;館内見学&gt; 幼稚園3校(105人)・小学校16校(958人)・中学校2校(37人)</li> <li>学芸員が1校あたり60分館内の説明を行った。</li> <li>&lt;出前講座&gt; 小学校6校</li> <li>総合:マンダローブ観察(講話と観察 2回)(名護小4年・143人)、出前講座(東江小3年・80人)、総合:幸地川FW(2回)(東江小4年・103人)、生活科:幸地川FW(2回)(大宮小2年・153人)、理科:嘉陽層の褶曲観察(真喜屋小6年・21人)、科学実験(ひるぎ学園サイエンスクラブ・14人)</li> </ul>	成果及び反省点	市内小中学校からの出前講座等の要望について、すべて応えることができた。
	実施値									44回		

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	
	総合評価 (A・B・C・D)	B	A	A						B	A	A						
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	ぶりでい子ども博物館事業は講座の内容を精査し、目的達成ができる創意工夫が必要ではないか。								上記評価とした理由又は特記すべき事項	一つひとつの講座や研修等の集客および定員は多くない小さな企画展を数多く開催し、博物館が学校教育活動、市民の学習、文化活動に密着している状況がうかがえ、非常に高く評価できる。告知や周知が弱い点は市民の感度の課題もあり、継続的な課題であるが、「もったいない」というのが正直な感想である。							

具体的施策名	市民の市史づくり	主管課	文化課	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	1	文化の保全・活用
					具体的施策	(3)	市民の市史づくり

目的	名護市の歴史を文化を調査によって明らかにし、書物として刊行する。そしてその成果を市民へ還元する。
----	--

主な取組	① 市史の刊行 取組の内容:「名護市史刊行計画」(平成27年7月答申)に沿って、市史本編や資料編等の刊行を行なう。平成34年度に全19巻刊行予定。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」の刊行が遅れ、平成28年度明許繰越となった。		原稿の校正作業に不測の時間を要している。						
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	「名護市史刊行計画」に沿って計画的に市史を刊行する	平成28年度	本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」の刊行	<ul style="list-style-type: none"> <li>本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」発刊及び写真から見る名護の沖縄戦発刊。</li> <li>本編・1「自然と人」調査、原稿執筆。</li> <li>本編・4「戦後生活史」調査。</li> </ul>		「自然と人1」は、次年度へ明許繰越となった。その他は、刊行に向けて調査、編さん中。		
	成果指標	既刊行数(全19巻)	目標値	16巻	目標値	14巻	実施値	13巻		
	② 教育普及活動の推進 取組の内容:市史編さん事業の成果を市民に広報、普及する。北部8高校を対象とした「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」フィールドワーク(平和学習)の実施、市史セミナーの開催、民話や市民の体験等を基にした紙芝居の製作、各字の字誌刊行へ向けた助言、資料の提供及び補助金の交付、など。		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	戦跡めぐりについては参加者も多く、適切に行なっている。市史セミナーについては、27年度は開催できなかった。		市史セミナーは、本編・3「名護・やんばるの沖縄戦」刊行後に、それに関連したテーマで実施する予定であったが、本の刊行が遅れたため、開催できなかった。							
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	平成30年度	平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	平成28年度	平和学習や様々なテーマでセミナーを開催し、市民が地域に対する理解を深める機会を提供する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>第22回「高校生とともに考えるやんばるの沖縄戦」FWの開催</li> <li>民話紙芝居16作目「蛙の嫁さがし」(山本川恒翁の語りより)の製作</li> </ul>		戦跡めぐりは、高校生と教諭で53人が参加した。市史セミナーは、名護・やんばるの沖縄戦100人参加。			
	成果指標	戦跡めぐりFWへの参加者数(高校生)	目標値	50人	目標値	50人	実施値	53人		
		市史セミナーへの参加者数	目標値	100人	目標値	50人	実施値	100人		
		紙芝居の製作総数	目標値	20作	目標値	17作	実施値	16作		
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
目標		目標		取組概要		成果及び反省点				
平成30年度		平成28年度				実施値				
成果指標		目標値		目標値		実施値				
④		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
平成30年度		平成28年度				実施値				
成果指標		目標値		目標値		実施値				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	刊行された多くの書物を、多くの市民や教育活動で活用してほしい。市民が気軽に活用できる環境づくりにも期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	市史の刊行は、校正作業に時間を要し、概ね達成となったが、普及活動への参加者はかなり増加している。							



具体的施策名	市民に開かれた利用しやすい図書館運営	主管課	中央図書館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	2	図書館サービスの充実
					具体的施策	(1)	市民に開かれた利用しやすい図書館運営

目的	「図書館は市民の本棚、暮らしの中に図書館を!」市民の要望や社会情勢に目を向け、豊富で多種多様な資料・情報の提供を行い、学校教育を援助し家庭教育の向上に向けて市内全域へのサービスの充実と読書環境の整備を図る中で、市民が利用しやすい多様な学習機会の提供と支援に努める。
----	--

① リクエスト、レファレンスサービスの充実・実施	平成28年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:利用者からの予約・リクエストに可能な限り応え、レファレンスサービスにも迅速に対応できるよう幅広い蔵書構成を心がける。またインターネットを活用したサービスの充実にも取り組む。	予約・リクエストサービス及びレファレンスサービスともに、目標値を達成できなかった。				蔵書点検と照明工事のために6月中を休館としたことが一因として考えられる。		
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	予約・リクエスト・レファレンスサービスの充実	平成28年度	レファレンスサービスのPRと充実	①予約・リクエストサービス件数… 2,928件(予約2,055件、リクエスト873件) ②レファレンスサービス件数 … 1,034件		レファレンスサービスについての図書館の取組みについて広報することが必要	
	目標値	4,100件	目標値	3,000件			実施値	2,928件
	目標値	2,500件	目標値	2,000件			実施値	1,034件
② 学校図書館司書との連携	平成28年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:市内小中学校図書館司書と中央図書館司書との連絡会をもち、学習支援や読書活動の充実に向けて協力していく。また共同で推薦図書リストを作成し、読み聞かせやレファレンスに対応できるよう図書資料を充実させる。	学校図書館を通して、学校に必要な資料の選定及び貸出を行った。				授業に必要な資料を公共図書館から借りることが定着しつつある。学校からの貸出要請件数はFAXでの事前依頼によるため、直接来館して依頼があった場合は件数に含まれていない。		
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	学校と連携し推薦図書リストを作成し、活用する	平成28年度	学校と連携し、学習に必要な資料を充実させる	学校から研究授業等で使用する図書資料の貸出要請があった際の、資料の選定と提供(16件)。*学校が希望するテーマの資料を30~100冊程度選定して提供。		授業に関連する資料の情報を集め、資料を必要数を揃えるなどの対応	
	目標値	38件	目標値	20件			実施値	16件
	目標値	1件	目標値	1件			実施値	—
③ ボランティアによるおはなし会の継続	平成28年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:毎週土曜日のおはなし会、月2回の赤ちゃんから幼児向けのおはなし会、春・クリスマスの特別おはなし会の開催	英語のおはなし会は好評で、定着しつつある。土曜日のおはなし会の参加者が減少している。				英語のおはなし会、ぴよぴよおはなし会は口コミなどで参加者が定着しつつある。土曜日のおはなし会は他のイベント等とも重なることが多いため、開始時間には対象の子ども達が図書館にいないことが多い。		
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	おはなし会の定期開催と乳幼児向けおはなし会の充実	平成28年度	定期的なおはなし会の開催	①毎週土曜日のおはなし会…42回 491人 ②ぴよぴよおはなし会(月2回)… 17回 228人 ③特別おはなし会…6回 291人 ④英語のおはなし会(月1~2)…20回 223人 計 85回 /1,233人		土曜日のおはなし会の開始時間及び内容の検討が必要。	
	目標値	85回	目標値	50回			実施値	85回
④ 市民の要望に考慮した講演会	平成28年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:一般・児童・郷土チームそれぞれで企画しての講演会・ワークショップ等の開催	講座数は減ったが、開催回数の多い講座が増えた。名護市と関わりのある講師を招いた講演会も開催したが、参加者が少なかった。				講演会の広報が遅れて、参加者が少なかった。		
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	市民のニーズに応え、地域の人材を活用したイベントの実施	平成28年度	市民の要望に即したイベントの実施	①アメリカ情報コーナー企画(ハワイアンフラ・英会話・kidsイングリッシュ・留学説明会・クッキング)687人 ②講演会「いっぽ いっぽ」36人 ③講演会「世界チャンピオンへの道と今」23人 ④知育玩具講座8人 ⑤親子工作&読み聞かせスキルアップ講座20人 ⑥JOYBEAT・健康測定785人 ⑦子ども司書体験講座6人 合計 7講座72回・参加者総数1,565人		定期的に開催している講座は好評であり、参加者も定着してきている。講演会も内容は好評であり、広報面の改善が必要。	
	目標値	15講座	目標値	8講座			実施値	7講座(72回)
	目標値	1,200人	目標値	950人			実施値	1,565人
⑤ 企画展等の実施	平成28年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:絵本原画展、給食係など他の部署との共催による企画展、アメリカ情報コーナー関連のポスター展	新美南吉絵本原画展は好評だった。図書館企画の展示以外にも、他課の主催する企画展を実施。				絵本原画展は、画家本人による読み聞かせや似顔絵を描いてもらうなど、今までにない形での実施だった。また、他課主催の企画展については、図書館での展示が広報や啓蒙活動に有効であると知られてきたためと思われる。		
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
	平成30年度	様々なジャンル、他機関との合同企画展	平成28年度	市民の要望、市民生活に役立つ企画展示	①新美南吉絵本原画展～沖縄・祈りと出会い展 ②戦争と平和を考える～戦後70年のあゆみ展(郷土コーナー、羽地図書室) ③アメリカ情報コーナーポスター展(4回)		原画展にあわせて開催したおはなし会も好評だった。	
	目標値	8回	目標値	3回			実施値	6回

-42-

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	A	A	A		
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	色々な企画の開催と、とても良いので、参加増に期待したい。 多様な取組や改善がなされ、多くの市民が利用しやすい図書館に期待する。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	A	B	A		
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	どの取り組みも充実していて高く評価できるが、学校現場へのレファレンスサービスや学校図書館司書との連携、市民への広報については、積極的にアプローチしていただきたい。							

具体的施策名	全市民へ公平なサービスの提供	主管課	中央図書館	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	2	図書館サービスの充実
					具体的施策	(2)	全市民へ公平なサービスの提供

目的	①広域住民への公平なサービスの提供 ②家庭・地域・教育関連機関の協力・連携を図りつつ、子ども達が自主的に読書活動が行えるよう資料及び読書環境の整備
----	---

<b>主な取組</b> -43-	<b>① 移動図書館、羽地地区センター図書室の充実</b> 取組の内容：月1回・28箇所の巡回ステーションでの貸出業務、本庁・学校・企業等へのセット貸出(配本)、羽地地区センター図書室での講座・ワークショップの開催	平成28年度現状				現状をもたらした原因				
		移動図書館、羽地地区センター図書室ともに前年度よりも貸出冊数減。				移動図書館の貸出冊数が目標値に達していないのは、蔵書点検休館が通常より長かったこと、3月のセット配本中止、巡回ステーションの見直しによる。羽地地区センター図書室についても、蔵書点検休館の影響があると思われる。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平成30年度	広域住民への貸出サービスとニーズに合った講座の開催	平成28年度	広域住民への貸出サービスと、ニーズに合った講座の開催	①市内28か所のステーションに月1回の巡回サービスを行った。また、夏休み期間中に特別巡回を5か所で実施した。 ②移動図書館独自の子ども司書体験を実施。 ③羽地地区センター図書室で、大人のための絵本よみがたりを開催した。(参加者9人)	羽地地区センター図書室での講座等開催を増やし、利用へつなげる必要がある。		
	目標値			55,000冊		目標値			55,000冊	
	目標値	15,000冊	目標値	15,000冊						
	移動図書館年間貸出冊数						実施値	42,199冊		
	羽地地区センター図書室貸出冊数						実施値	7,753冊		
	羽地地区センター図書室講座開催数						実施値	1回		
	<b>② 地域公民館、企業等へのセット貸出の推進</b> 取組の内容：「公民館、企業、本庁内の希望部署に、毎月1回」セット本の配本を行っている。※図書館であらかじめ1セット50冊の圖書のセットを組み、各団体に届けている。巡回ステーションでもセット本の貸出を行っている。	平成28年度現状				現状をもたらした原因				
		セット貸出先の増減があった。配本については概ね好評だった。				相手方の理由によるセット貸出中止が1か所、あらたに希望する事業所が2か所あり、1増となった。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
平成30年度			図書館利用が難しい企業・団体への配本サービスの充実	平成28年度	本庁・企業・団体への配本サービス	①本庁内の部署、企業等9か所のステーションへの配本(月1回) ②移動図書館の巡回ステーションでのセット本の貸出	配本サービスは目標値に近づいている。移動図書館の巡回ステーションでも実施し、好評を得ている。			
	目標値		10か所		目標値			7か所		
目標値		目標値								
セット貸出ステーション数						実施値	9か所			
<b>③</b> 取組の内容：	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標値		平成28年度	目標値		実施値		
目標値				目標値						
目標値		目標値								
<b>④</b> 取組の内容：	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標値		平成28年度	目標値		実施値		
目標値				目標値						
目標値		目標値								

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	学力向上主要テーマの関係から、市民へ広く啓発する上からも企業への貸出を推進してはどうか。移動図書館車の活動を増やし、羽地地区図書館の蔵書も増やして、市民が公平なサービス提供が受けられる様に工夫が必要ではないか。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	移動図書館、羽地地区図書貸出し冊数は目標値まで届かなかったが、生涯学習社会の実現という大きな教育方針に沿ったもので、事業として評価できる。子どもの読書活動の充実は、教育委員会でも重点事項であり、学校現場や区の公民館等と連携して貸出冊数を増やす方策を考えていただきたい。							

具体的施策名	市民会館事業の充実	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	3	芸術文化を偕都雄するための環境づくりの推進
					具体的施策	(1)	市民会館事業の充実

目的	市民が芸術文化を身近に感じることができるよう、市民の芸術創造活動への参加と交流を促す。また、文化団体の支援を行うことにより、地域全体に芸術文化を普及させ、潤いと活力あるまちづくりの実現のために、自主芸術文化事業の企画・運営を行う。更に、市民のニーズに沿った芸術文化公演や展示会、文化庁・各財団等の補助・助成金を活用した事業を実施する。
----	---

主な取組 -44-	① 地域の芸術文化を生かしたまちづくりの展開		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	取組の内容: 市民へ、人とまち、人と文化をつなぐ新たな芸術創造活動への参加と交流を促し、潤いと活力のあるまちづくり実現のための自主文化事業を年に約20回の公演の企画・運営を行っている。		公演の鑑賞者増を図るための広報・周知として、市民のひろばへの掲載及び市内小中学校へのチラシ配布また、市内及び近隣町村の公共施設等へのポスター、チラシ配布を行い、周知を図っている。				広報・周知については、現状の取り組みだけではなく、今後更なる集客増が期待できるような、手法について十分に検討する必要がある。						
	成果指標	公演の企画数	平成30年度	目標	5回	平成28年度	目標	5回	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宝くじ文化公演「夏川りみと京都フィルハーモニー室内合奏団コンサート」(1,000人/1,000人)</li> <li>・夏休み親子鑑賞企画 玉川芸術大学パフォーミングアーツによる「ちゃんぷるーしあー」2016(150人/300人)</li> <li>・平成28年度名護市教育の日関連事業 林洋子「宮沢賢治語り芸」クラムボンの会 名護公演 (250人/200人)※2回公演の合計</li> <li>・琉球芸能「彩・風・香」沖縄県立芸術大学OB若武者で創る沖縄の伝統芸能公演(400人/600人)</li> <li>・名護市民会館クリスマスプレゼント 劇団たんぼぼ「いのちのまつり」演劇公演(鑑賞者600人/700人)</li> </ul>	成果及び反省点	知名度が高い企画は、目標入場率を達成できた。知名度が低い企画について、集客増の工夫必要。ただし、知名度が低くても質の高い企画は、今後も継続する。	
		公演の鑑賞者入場率	目標値	100%	目標値	100%	実施値	5回					
			目標値		目標値		実施値	83%					
	② 市民参加型事業の充実(ピックリスマス等)		平成27年度現状				現状をもたらした原因						
	取組の内容: 芸術文化を鑑賞するという立場から、自らが実際に芸術文化に触れ、参加・体験することにより、芸術文化への関心が高まる。		公演の鑑賞者増及び事業への参加者増を図るための広報・周知として、市民のひろばへの掲載及び市内小中学校へのチラシ配布また、市内及び近隣町村の公共施設等へのポスター、チラシ配布を行い、周知を図っている。				広報・周知については、現状の取り組みだけではなく、今後更なる集客増が期待できるような手法について、十分に検討する必要がある。						
	成果指標	公演の企画数	平成30年度	目標	3回	平成28年度	目標	3回	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第32回市民音楽祭(鑑賞者400人/700人)(参加者209人)</li> <li>・コーラスワークショップin名護・やんばる～出会いの歓びをコーラスに～辻秀幸先生を迎えて 参加者100人</li> <li>・コーラスフェスタin名護・やんばる～出会いの歓びをコーラスに～(鑑賞者361人/500人)参加者200人※鑑賞者数は参加者200人含む</li> </ul>	成果及び反省点	参加者数は、良好。引き続き、参加者の裾野の拡大を図っていくことが、課題である。	
		公演の鑑賞者入場率	目標値	100%	目標値	100%	実施値	3回					
			目標値		目標値		実施値	63%					
③ 高齢者、障がい者施設へのアウトリーチ事業の拡充		平成27年度現状				現状をもたらした原因							
取組の内容: 芸術鑑賞体験の機会が制限される福祉施設等の社会的弱者へ質の高い芸術文化を身近に体験させることにより、豊かな感性を育み、また、芸術文化への関心へと繋げる。		市内の各高齢者・障がい者施設等、全ての施設において事業実施できるかが、課題である。				市内の各施設と連携を密にし、計画的なアウトリーチ事業の実施・展開が必要である。							
成果指標	企画回数	平成30年度	目標	5回	平成28年度	目標	5回	取組概要	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名護市児童合唱団ふれあいコンサート 特別養護老人施設かりゆしぬ村(約100人)</li> </ul>	成果及び反省点	平成28年度については、各アーティストと各施設との日程調整が付かず、実施が困難であった。		
		目標値		目標値		実施値	1回						
		目標値		目標値		実施値							

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	C				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	実施回数、集客数が目標に達していないので、目標達成に向けての取組が必要である。ターゲットを絞った事業の在り方も必要ではないか。アウトリーチ事業は、行動に制限のある人々にとって、刺激を受けることができる良い機会になると思うので、施設との日程調整を理由にせず、目標値に向け取り組んでほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	B				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	公演等の実施回数は目標値をクリアしているが、鑑賞者の入場率が目標値を下回ったのは課題として残る。集客は非常に難しいので事業としては十分評価できる。アウトリーチ事業については、市内訪問施設年次計画と実施時期、内容の年間計画に従い、アーティストと施設側との連絡調整役として実施へ向けての努力が必要である。							

具体的施策名	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	3	芸術文化を偲都雄するための環境づくりの推進
					具体的施策	(2)	次世代の芸術文化を担う人材育成の推進

目的	未来の芸術文化を担い、支える人づくりに取り組むため、子どもを対象として芸術文化を体験する機会を提供することにより、芸術文化の担い手である子どもやその指導者等、双方の拡充を図り、活動発表・交流の場づくりを行う。
----	--

主な取組	-45-	① 子ども芸術支援事業の充実 取組の内容: 次世代を担う子どもたちが積極的に芸術文化活動へ参加できる環境づくりに努め、時代のニーズに沿った指導等を行い、子どもたちが感受性及び創造性を発揮できるよう指導者等と連携を図りながら、協同でその環境整備を図っていく。	平成27年度現状				現状をもたらした原因						
			各団の団員確保及び指導者確保に苦慮している。				近年、子どもたちを取り巻く生活環境は時代と共に変化する中で、低学年より部活動や習い事などが盛んになり、団員を募るも厳しい現状にある。また、指導者についても、専門的な知識や経験を有する者が少なく、同様に厳しい状況下にある。						
			成果指標	目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
				平成30年度	子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、文化活動の充実及び児童生徒の健全育成を図る。	平成28年度	子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、子ども主体の芸術文化活動の促進を図る。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・名護ジュニアオーケストラ(12人、活動51回)</li> <li>・名護市児童合唱団(22人、活動47回)</li> <li>・第19回名護ジュニアオーケストラ定期演奏会・ニューイヤーコンサート琉球交響楽団との共演(300人)</li> <li>・第19回名護市児童劇団定期公演「6体の地蔵」公演(550人)</li> <li>・第5回名護市児童合唱団定期演奏会(150人)</li> <li>・地域活動として、ビーチクリーン活動や福祉施設等でのアウトリーチ公演等(3回)</li> </ul>				3団体共に、定期公演で普段の練習成果を披露し、鑑賞者の方々から好評を得た。活動を継続するためにも団員増の取組が課題。	
					目標値		60人						
			活動(練習)回数	135回	目標値	135回	実施値						
			公演開催回数	3回	目標値	3回		134回	3回				
			② 市内の学校等と連携したアウトリーチ事業の展開 取組の内容: プロのアーティストを招聘し、市内小中学校に派遣し、ワークショップやミニコンサートを実施。児童生徒が芸術文化を身近で鑑賞・体験することにより芸術への関心度を高める。		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
			本アウトリーチ事業を実施することにより、子どもが持つ優れた感性と個性を伸ばし、豊かな情操を育む、感性豊かな子どもの育成に繋がっているか。				本事業は、学校の授業の一環として、取り組んでいる事業であるため、今後の事業実施においても、学校側及び担当の教職員と連携を密にして進めていくことが重要である。						
			成果指標	目標		目標		取組概要				成果及び反省点	
平成30年度	プロの演奏家によるコンサートを身近で体験することにより、子どもの想像力と感性を刺激する。	平成28年度		普段の音楽の授業とは違う雰囲気の中で、生の芸術鑑賞を体験できる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ちゆらトリオ～おんがくの玉手箱～青木るね(ヴァイオリン)&amp;長南牧人(チェロ)&amp;謝花千春(ピアノ) 安和小学校60人 大北小学校30人</li> <li>・おんがくの玉手箱～荒川洋(フルート)&amp;當山真由美(サクソフォン)&amp;謝花ちはる(ピアノ) 名護小学校40人 東江小学校35人</li> <li>・バナナの葉っぱを和紙にいれてみよう! デザイナー 享保くら 名護特別支援学校高等部10人</li> <li>・琉球交響楽団地域クラシックコンサートin名護市 ひるぎ学園150人 久辺小学校150人 真喜屋小学校90人</li> <li>・おんがくの玉手箱～ピアノ&amp;鍵盤ハーモニカ～長浜恵子(ピアノ)&amp;謝花千春(ピアノ&amp;鍵盤ハーモニカ) 大宮小学校145人</li> <li>・大森智子門下生 昭和音楽大学合宿in名護市「音楽は夢の架け橋」 屋部中学校65人</li> </ul>				実施校から好評であった。今後も市内の各学校側と連携を図り、多種、多様なメニューのアウトリーチ事業を実施していきたい。				
	目標値			25回							目標値	20回	
開催回数	11校	目標値	11校	実施値							12回		
開催校数					10校								
③		平成27年度現状				現状をもたらした原因							
取組の内容:													
成果指標	目標		目標		取組概要				成果及び反省点				
	平成30年度	目標値		平成28年度	目標値								
					目標値								
						実施値							

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	各団体の団員確保や、指導者確保も厳しいが、定期公演での鑑賞の評価も高いので、今後も積極的に芸術、文化活動へ参加できる環境づくりと指導者の育成に努めてほしい。 家庭的、金銭的に恵まれていない子ども達の参加の仕方を、関係機関との連携で参加できる機会を探ってはどうか。 アウトリーチ事業について、学校の年間行事等で調整が難しいと思うが、本来の目標である20校を目指してほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	プロの演奏家によるコンサートは、児童生徒の感性を育む芸術体験である。20回の予定が12回であったのは残念である。 従来事業としては十分成果は上がっていると考えられるが、さらに未来の子供たちの芸術の感性を開花させられるよう、新たな取り組みも期待したい。							

具体的施策名	中央公民館の充実	主管課	地域力推進課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	4	公民館活動の充実
					具体的施策	(1)	中央公民館の充実

目的	市民ニーズに応じた各種事業に取組み、生涯学習機会の提供や市民が誰でも気軽に集える生涯学習の拠点となるよう、施設の管理・運営の向上に努める。
----	---

主な取組	① サークル団体の支援及び発表機会の提供 取組の内容: 毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。毎年10月から3月まで、1サークルにつき2週間の展示発表を中央公民館で行っている。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		それぞれのサークルは活発に活動しているが、展示発表や舞台発表の際に関係者以外の観覧者があまりいなかったため、舞台発表については市内イベントで活動を披露できるよう支援を行った。				・展示発表については、周知不足が原因と思われる。 ・舞台発表については観客が多く見込まれる市内イベントへ参加する支援を行った。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		平成30年度	稼働率の低い部屋の利用の促進を行い目標値に近づける		平成28年度	サークル団体の増		サークル登録団体数: 49 展示発表: 10/17から3/19まで開催 10組のサークルが発表を行った。 舞台発表: 3/12福祉祭りと合同で開催 舞台系サークルへ参加希望アンケートを取り、6組のサークルが発表を行った。 毎年サークル団体登録を行ってもらい、登録団体へは施設使用料の減免等を行っている。	サークル間で出来るだけ曜日と時間が被らないように調整している。調理室の稼働率が低いので、その分サークル増が可能である。桜祭りやその他市内イベントへの出演や、市外の発表会へ参加しているサークルもある。		
			目標値	55団体		目標値	50団体			実施値	49団体
		成果指標	中央公民館サークル団体数		目標値	1回		実施値	1回		
			サークル活動発表会								
		② 社会的な課題をテーマにした講座の実施 取組の内容: 社会の変化や要望に応じた講座を実施し、市民活動の向上を目指している。									
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		提案型や地域課題解決型の講座等を計画的に行っており、定員に対する参加率も高い。				市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。					
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
平成30年度	市民生活向上につながる講座の開催		平成28年度	市民生活向上につながる講座の開催		(公民館提案型講座: 8回) ・子ども美術教室: 43人 ・子ども書道教室: 16人 ・親子でMy積木づくり: 25人 ・親子発酵体験講座: 137人 ・大人のイタリアン講座: 29人 ・手作りパン講座: 4人 ・沖縄の行事食講座: 24人 ・初心者のためのかぎやで風体験講座: 20人  (地域課題解決型講座: 3回) キッズダンス教室: 22人 ・自治公民館会計事務講座: 61人 ・親子の絆づくり料理教室: 19人  (学童思春期講座: 7回) ・ペアレントトレーニング: 26名 ・親子でけがをしない体づくり: 100人 ・ここはどこにありますか: 130人 ・すべてにありがとう: 501人 ・夢を叶える黄金の五か条(東江中): 30人 ・夢を叶える黄金の五か条(大宮小): 41人 ・10年後のために今出来ること: 31人  (乳幼児期講座: 3回) ・ママはおうちのセラピスト: 14組 ・親子で英語リトミック(Galopクラス): 10組 ・親子で英語リトミック(Trotクラス): 11組	学童思春期講座については市内全小中学校からアンケートを取り、要望のあった全7小中学校で講座を開催出来た。  調理室を使用するサークル化に向けて、料理関係講座を多く(3講座)取り入れた。				
	目標値	25講座		目標値	25講座			実施値	21講座		
成果指標	講座実施数		目標値	100%		実施値	108.47%				
	講座受講定員率										

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A ・ B ・ C ・ D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	A					
	総合評価 ( A ・ B ・ C ・ D )	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	市民ニーズに応じた各種事業に取り組み、社会的な課題をテーマにした講座の実施で多くの参加者があり、今後も活発に継続してほしい。課題を明確にした、地域公民館との連携の在り方を検討してほしい。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A ・ B ・ C ・ D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 ( A ・ B ・ C ・ D )	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	サークル活動に関しては、特定のサークルが施設を専有することなく多種多様なサークル活動を支え、発展できるよう、施設管理・運営がなされている点が評価できる。 講座については、従来からの取り組みは非常に高く評価できる一方で、学校教育と生涯教育の役割を再確認(学社連携は非常にいいこと)してほしい。学校教育を補完することのみが社会教育ではないので、市民の生涯学習としてどのようなテーマを提示していくか検討を深め、生涯学習社会の実現という大きな目標に向けて、中央公民館の役割を確認し、市民ニーズに応えていくことを期待する。							

具体的施策名	地域公民館の充実	主管課	地域力推進課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	4	公民館活動の充実
					具体的施策	(2)	地域公民館の充実

目的	市民が気軽に集える生涯学習の拠点となるよう、地域公民館の活動を支援する。
----	--------------------------------------

主な取組	① 「名護市公民館連絡協議会」との連携の充実 取組の内容:各区の公民館長や書記を対象にした研修会を年に1回実施し、連携の充実を図る。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		H27年9月3日、屋我公民館にて各公民館維持管理費についての研修会を行った。				平成26年4月1日に各区コミュニティ施設と名護市で交わした協定書の内容が周知不足であった事と、各区長の交代も有り、内容確認のために研修会を行った。				
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
			研修会の実施	1回		研修会の実施	1回		市公連の役員会で要望の上があった「自治公民館の会計税務講座」を実施した。	
	成果指標	公民館職員研修会	目標値	1回	目標値	1回	・自治公民館の会計税務講座の実施(対象者:55区長及び書記会計) (自治公民館の運営に必要な会計税務ついてと、H28年度から開始されるマイナンバーの取扱いについて学び、公民館実務の強化を図った。・参加者数61人)	実施値		1回
	② 各区及び他機関と連携した講座の実施 取組の内容:地域の公民館等を活用し、地域移動講座を実施します。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		各支所に配置されている社会教育主事と連携し、地域の要望課題を取り入れた講座を実施した。				H27年度は羽地と久志の2支所から課題解決型の講座開催要望があったため。				
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
			地域の要望及び課題解決型講座の開催	7回		地域の要望及び課題解決型講座の開催	5回		各支所以外の地域の公民館を活用した講座を開催していく。	
	成果指標	地域移動講座	目標値	7回	目標値	5回	久志支所においては、「キッズダンス教室」を開催した(参加者数21人)。 羽地支所にて「親子の絆づくり料理教室」を開催した(参加者数19人)。	実施値		2回
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点	
			地域移動講座			地域移動講座				
成果指標	地域移動講座	目標値		目標値			実施値			
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
		地域移動講座			地域移動講座					
成果指標	地域移動講座	目標値		目標値			実施値			

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	地域公民館が行政的な役割だけでなく、スポーツ及び文化の連携拠点としての役割を担うべきと感じる。 地域活性化のためには、公民館活動の充実が必要であり、区長研修会等を増やし、社会教育主事と連携し活性化を図る必要がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	公民館連絡協議会が活発に活動できる環境づくりに取り組んでいる点は評価できる。 連携講座は取り組み日数が浅いので周知が弱いですが、継続して久志地域以外でも連携講座が開催されることを望む。また社会教育主事の活動が教育委員会からはなれて分かりづらくなっているが、教育委員会でもその動きがわかるような仕組みが望まれる。 また、配置された社会教育主事が、地域の課題に即した講座をそれぞれの公民館で、提案・実施できると良い。							

具体的施策名	スポーツ活動事業の推進	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(1)	スポーツ活動事業の推進

目的	市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。
----	----------------------------

主な取組	① 各種スポーツ教室の開催(テニス、水泳、ウォーキング等) 取組の内容:各種スポーツ教室の開催	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		各種スポーツ教室や地域イベントでのスポーツ体験教室、体力測定、ツール・ドール輪車大会、チュックボール大会を開催している、高齢者の方々に参加できる環境がまだ不足している。				気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組んでいるが、スポーツに馴染みのない市民も多いことから、地域に出向いての活動を増やす必要がある。					
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
			子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。	子どもから高齢者まで市民が気軽にスポーツに親しめる環境づくりに取り組む。		<ul style="list-style-type: none"> <li>シーカヤック教室(40/40人)</li> <li>少年少女水泳教室(31人/50人 9回講座)</li> <li>地域スポーツ教室(宇茂佐区2回開催/計45人)</li> <li>地域イベントでのスポーツ体験教室(羽地ダムまつり366人・ツデーマーチ100人/計466人)</li> <li>体育の日市民体力測定(41人)</li> <li>ツール・ドール輪車大会(270人)</li> <li>チュックボール大会(30人)</li> <li>小学校交流駅伝競走大会(参加者:373人 市内13校)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域公民館でのスポーツ教室や地域イベントでのスポーツ教室等を開催することで、気軽にスポーツに親しむ環境づくりに取り組んでいるが、今後は、更に地域公民館へ出向いて活動に取り組みたい。</li> </ul>				
		成果指標	スポーツ教室等への参加者数	2,000人	1,200人			実施値	1,296人		
		地域スポーツ教室等の開催回数	目標値	12回	4回	2回					
		② 学校プール一般開放事業 取組の内容:学校プール一般開放事業		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		夏季休業期間中に、学校プール施設(羽地中、久辺中、緑風学園)を活用し実施。		小中学校の夏季休業開始前に利用案内を行っていることもあり、利用者が多い。継続して実施したい。							
		平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点		
			学校プール施設(羽地中、緑風学園)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。	学校プール施設(羽地中、緑風学園、久辺中)を活用し、市民の体力向上と水泳の振興に努める。		<ul style="list-style-type: none"> <li>下記学校プールを活用し一般開放(20日間)を行った。</li> <li>羽地中:705人</li> <li>緑風学園:257人</li> <li>合計962人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校プール施設を開放することで、普段水泳に親しむことがない市民が気軽に利用できる環境を整えており、引き続き事業を継続していきたい。</li> </ul>				
成果指標	学校プール一般開放事業利用者数(20日間)	1500人	1,200人	実施値	962人						
③ スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援 取組の内容:スポーツ推進委員の組織強化及び活動支援		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
全国、九州、沖縄県、北部地区の研修会への参加及び自主研修を実施。新規委員の確保に向けた取組。		積極的に研修会へ参加し自己研鑽を重ねているが、新規の委員確保が厳しい状況となっている。									
平成30年度	目標		平成28年度	目標		取組概要	成果及び反省点				
	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。	スポーツ推進委員の資質向上及び技能向上を図り、必要な人員を確保する。		<ul style="list-style-type: none"> <li>北部地区スポーツ推進委員研修会(6月開催:参加11人、3月開催:参加17人)</li> <li>沖縄県スポーツ推進委員研究大会及び研修会(8月開催:参加者10人、12月開催:参加者19人)</li> <li>全国スポーツ推進委員研究大会(11月開催:参加者1名 福井県鯖江市)</li> <li>九州地区スポーツ推進委員研究大会(2月開催:1名 熊本県熊本市)</li> <li>自主研修会:月例会を毎月第3木曜日に開催しており、毎回12、3人の名護市スポーツ推進委員が参加</li> <li>教育委員会主催のスポーツイベントにおいて運営役員として活動</li> <li>ツール・ドおきなわ輪車大会大会12人・沖縄県チュックボール大会8人</li> <li>※共催行事として、名護市ワラビニック6人、NAGOハーフマラソン9人が運営役員として活動</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>各種研修会へ名護市スポーツ推進委員が参加し、自己研鑽を重ねており、その成果を地域へ還元していることから、引き続き研修会への参加を促していきたい。しかしながら、委員も高齢化してきていることから、今後、新規委員の開拓も必要となっている。</li> </ul>						
成果指標	研修会・実技研修会開催数	16回	16回			実施値	16回				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	B				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	地域スポーツ教室等の開催回数の実施値が2回では、30年度の目標値に遠く、課は違うが「地域公民館の充実」との連携等の工夫が必要である。各種スポーツ教室、軽スポーツ大会等の広報活動を活発にして、多くの市民が気軽に参加して、親しめる環境が必要である。プールは、屋我地及び屋部地区等でも気軽に使える施設が必要である。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	B				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	スポーツ活動を支える人材の確保に工夫が必要であり、スポーツ推進委員の研修はさらに推進して行ってほしい事業で、ニュースポーツ等の教室は市民への広がりを考えると工夫が必要と感ずる点もある。概ね評価できる取り組みである。学校プール開放事業は市民ニーズと合致しているのかはチェックして、他の取り組みがないのか検討する必要があるのではないかと感じる。							

具体的施策名	青少年のスポーツ活動の推進	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	II	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(2)	青少年のスポーツ活動の推進

目的	子どもたちにスポーツの楽しさや達成感などを実感できる環境を整備することで、スポーツ活動の推進を図る。
----	--

主な取組	① ジュニアを中心としたトップアスリートの育成・強化及びスポーツ少年団の組織化及び指導者育成の推進 取組の内容:スポーツ少年団等の指導者育成を図るため講習会を開催する	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		子どもたちのスポーツ活動に関する課題(練習時間の過多、食事面など)が出ている。				子どもたちのスポーツ活動に関わる指導者の育成・確保に取り組む必要がある。				
		平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点		
			多くのスポーツ団体等の指導者が講習会を受講する環境を整える		多くのスポーツ団体等の指導者が講習会を受講する環境を整える					
	目標値		2回	目標値	2回					
	成果指標	指導者講習会開催件数		指導者講習会受講者数		名護市体育協会と連携し、1回(10月)のスポーツ団体等の指導者講習会を開催(受講者数12人)。	実施値			
		指導者講習会受講者数		指導者講習会受講者数						
		スポーツ少年団数		スポーツ少年団数						
	② プロ選手やトップアスリートによるスポーツ教室の開催 取組の内容:県内・県外で活躍するプロ選手によるスポーツ教室を開催する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		ハンドボール、バスケットなど県内のプロ選手によるスポーツ教室を開催。				県内においてハンドボールやバスケットなどのプロリーグの立上げにより、一流選手のプレーを身近に観ることができる環境が増えたことやスポーツ教室等の開催も増えてきている。				
		平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点		
			子どもたちの感性を刺激し、今後のスポーツ活動に役立てる。		子どもたちの感性を刺激し、今後のスポーツ活動に役立てる。					
目標値	3回		目標値	1回						
成果指標	スポーツ教室の開催件数		スポーツ教室参加者数		自転車競技のプロチームである那須ブラーゼンによる自転車安全教室を開催。(3月開催参加者数30人)	実施値				
	スポーツ教室参加者数		スポーツ教室参加者数							
	スポーツ教室参加者数		スポーツ教室参加者数							
③	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:				取組の内容:					
	平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点			
		目標値		目標値						
目標値		目標値								
成果指標	目標値		目標値		取組概要	成果及び反省点				
	目標値		目標値							
	目標値		目標値							
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
	取組の内容:				取組の内容:					
	平成30年度	目標		目標		取組概要	成果及び反省点			
		目標値		目標値						
目標値		目標値								
成果指標	目標値		目標値		取組概要	成果及び反省点				
	目標値		目標値							
	目標値		目標値							

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 ( A・B・C・D )	C	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	講習会を計画しても、参加者が少なくは目的は達成できない。各種団体と連携し多くの指導者、競技者が興味関心を持てる事業にしてほしい。ジュニア、少年スポーツ育成強化の為に指導者を育てる内容が乏しいと感じる。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 ( A・B・C・D )	C	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	プロ選手による指導は個別の競技で実施している部分もあり、大切な取り組みではあるが、まず部活と学校生活の関係や指導者の意識改革など、①の事業を充実させていくことが急務である。ここは教育委員会しかできない部分でその役割発揮が望まれる。プロ選手やトップアスリートによるスポーツ教室の回数を増やせれば参加者増となる。						

具体的施策名	競技スポーツの推進	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅱ	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(3)	競技スポーツの推進

目的	名護市体育協会や名桜大学等と連携し、競技者の育成及び競技力向上を図る。
----	-------------------------------------

主な取組	① スポーツ関係団体支援事業 取組の内容:各種競技大会における共催・後援等の支援、名護市体育協会への助成を活用した3支部体育協会への支援を行う。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		名護市体育協会を中心として、各種スポーツ団体の活動を支援。				競技スポーツの推進を図ることを目的としている名護市体育協会と連携し、支援することで各種スポーツ団体の競技力の向上に繋げている。				
		成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点	
			平成30年度	スポーツ活動を支援し、団体数の増を目指す。	平成28年度	スポーツ活動を支援し、団体数の増を目指す。	各種競技大会への共催・後援、競技役員への支援。 名護市体育協会への助成金を活用した3支部体育協会(北体協、南体協、久志体協)の活動支援。	実施値	18団体	
	名護市体育協会専門部の団体数	20団体	20団体							
	② 県レベルの大会やスポーツイベントの開催 取組の内容:NAGOハーフマラソン、沖縄本島唯一のなごうらマラソン、アフター5EKIDEN、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
	各種スポーツイベントの開催支援。				名護市体育協会やツール・ドおきなわ協会と連携し、スポーツイベントを開催している。					
	成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	大会等の充実を図り参加者の増加を目指す。	平成28年度	大会等の充実を図り参加者の増加を目指す。	NAGOハーフマラソン、なごうらマラソン、アフター5EKIDEN、ツール・ドおきなわ輪車大会の開催支援。また、名護市体育協会主催による各種競技大会への支援し、沖縄県民体育大会での上位入賞を目指す。	実施値	4件 3団体		
	大会・スポーツイベント開催件数	5件	4件							
	県民体育大会優勝競技団体数	7団体	5団体							
	③	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:										
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	平成30年度		平成28年度			実施値				
④	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
取組の内容:										
成果指標	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	平成30年度		平成28年度			実施値				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	競技スポーツの推進の為に、様々な領域の指導者の育成が必須と考える。これまでのNAGOハーフマラソン、なごうらマラソン、ツール・ドおきなわ等のイベントは、素晴らしい成果だと思うが、これからは新しい競技のイベント誘致も必要ではないか。						

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 (A・B・C・D)	B	B					
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	県レベルの大会及び名護市主催競技への支援により、運営が充実し、参加者が増えている。スポーツ関係団体支援事業は、子供たちの数が減少傾向にある中で多様なスポーツに接する機会を作るためにも重要である。スポーツコンベンションとしての大会誘致・実施は新しい部分もあるので今後更なる取り組みに期待したい。						

具体的施策名	社会体育施設の整備	主管課	文化スポーツ振興課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	II	生涯学習社会の実現
					個別目標	5	スポーツ・レクリエーション活動の充実
					具体的施策	(4)	社会体育施設の整備

目的	施設の維持管理及び利用者が快適に活動できる施設の整備拡充を図る。
----	----------------------------------

主な取組	① 真喜屋運動広場の再整備事業 取組の内容:多目的広場として、様々なスポーツが快適かつ安全に行えるよう拡張整備を実施する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因				
		本体整備工事に係る実施設計を完了したが、今年度予定していた拡張部分の用地取得についてはH28年度に繰越。				森林法に基づく保安林指定の解除及び都市計画法に基づく開発行為許可の手に時間を要したことから、H29年度へ一部工事を繰越すこととなった。				
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	整備事業の完了済 (平成28年度)	平成28年度	本体整備工事の完了	①平成24年度完了:基本設計 ②平成25年度完了:県資材ヤード移転先造成設計 ③平成26年度完了:県資材ヤード移転先造成工事(繰越事業)、拡張部分(国有地)用地測量 ④平成27年度完了:実施設計(繰越事業)、拡張部分(真喜屋区有地)用地分筆測量、海岸保全区域の一時解除手続 ⑤平成28年度完了:拡張部分用地取得(国有地及び真喜屋区有地)、海岸保全区域再設定手続、保安林解除手続 ⑥平成29年度予定:本体整備工事完了	・保安林解除手続及び開発申請手続に時間を要したことから、本体整備工事の完了が遅れることとなった。			
	成果指標	真喜屋運動広場の拡張整備	目標値	完了(H28)	目標値	完了	実施値	一部完了		
	② 体育施設維持管理業務及び改修事業 取組の内容:施設の維持管理及び経年劣化している設備等の更新を実施する。		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	不具合等が生じている箇所の修繕を行い、維持管理に努めた。				設備等の経年劣化による不具合が度々生じている。					
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	平成30年度	利用者が快適に利用できるよう維持管理を行う	平成28年度	利用者が快適に利用できるよう維持管理を行う	・管理施設として、21世紀の森体育館、名護市陸上競技場、羽地ダム多目的広場、名護市B&G海洋センタープールがあり、指定管理者による運営管理を行っている。また、不具合等の修繕等を行っている。 ※NPO法人名護市体育協会管理:21世紀の森体育館、名護市陸上競技場、羽地ダム多目的広場 ※名護市B&G海洋センター指定管理者共同企業体:名護市B&G海洋センタープール	・利用者が増えている一方、経年劣化による不具合箇所の修繕も多くなっている。				
	成果指標	管理施設利用者数	目標値	250,000人	目標値	200,000人	実施値	202,750人		
	③		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
	平成30年度		平成28年度				実施値			
	成果指標		目標値		目標値		実施値			
	④		平成27年度現状				現状をもたらした原因			
	取組の内容:									
目標		目標		取組概要		成果及び反省点				
平成30年度		平成28年度				実施値				
成果指標		目標値		目標値		実施値				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	真喜屋運動広場の完成が急がれる。完成後は多くの団体の有効活用が期待できる。名護市陸上競技場は駐車場に問題があり(周辺民家への迷惑)、早急に総合運動場に取り組む必要がある。部分的整備をしながら、今後はスポーツコンベンションの発想の下、総合的な施設整備を推進する必要がある。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	市民が快適に利用できるように、施設のメンテナンスと同時にスタッフのサービス向上も努力すると、さらに利用者数の増加や使い方・マナー等の向上につながると思われるので、ソフト面の充実を期待する。							

具体的施策名	青少年の健全育成事業の充実	主管課	地域力推進課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基 本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ 学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1 地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(1) 青少年の健全育成事業の充実

目的 青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。

① 「名護市青少年育成協議会」活動の充実		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:第36回名護市青少年の主張大会の実施、善行青少年、育成功労者表彰の実施、青少年健全育成体制の充実を図っている。		各支部を対象に青少年健全育成提案型助成事業を実施した。		各支部組織の充実・強化を図ることで、地域社会の健全な発展と青少年の健全育成に繋がるため実施した。		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標	平成28年度	目標	青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。	青少年が心身ともに健全な社会人として成長するよう、家庭、学校、地域社会、関係団体が連携し、青少年の健全な育成を図る。	青少年協総会・役員会等(80名) ・善行青少年及び育成者功労表彰(5人) ・第36回名護市青少年の主張大会(270人) ・インターネット・スマートフォンに関する講演会(70人) ・青少年育成講演会(97名) ・青少年健全育成提案型助成事業 屋部支部:屋部川にじ公園ステージの壁画制作活動(21名) 屋我地支部:屋我地ひるぎ学園開校記念デジタルアーカイブ(10名) 久志支部:地域密着型子ども映像制作(45名) 羽地支部:青少年国際交流事業～世界を感じる羽地っ子～(13名) ・社会環境実態調査(3名)	前年度の反省点から、青少協で研修会を実施。近年問題となっているインターネット、スマートフォンによるネットいじめや依存症等について、また、市内で発生した小学生が絡む暴力・動画事件を受け、青少協役員だけでなく、市民も対象に講演会を開催したが、市民のひろばやチランの全児童配布も行っているが、参加者が少ない。広報の方法等の検討が必要。	成果及び反省点
		成果指標	青少年健全育成事業への参加者数	目標値	1,000人	目標値	1,000人	実施値	614人	
② 「深夜はいかい防止等名護市民大会」の開催及び夜間街頭指導の実施		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:「平成28年度深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・夏の交通安全運動・いじめ暴力根絶名護市民大会」の実施。夜間街頭指導活動の実施(少年を守る日・夏まつり・さくら祭り)		毎年青少年の深夜はいかい防止市民大会を開催しているが、参加者が少ない状況にあり課題がある。※平成27年度は台風のため大会中止 夏祭り夜間街頭指導活動は、台風接近のため中止となった。さくら祭り夜間街頭指導活動を実施した。少年を守る日の夜間街頭指導活動は、5中校外指導部や少年輔導員、青少年育成協議会と連携し実施。		・深夜はいかい防止市民大会は、開催日が平日の夕方ということもあり、一般の参加者が少ないのではないかと考えられる。また、青少年の問題行動が大きく取り上げられたときには、参加者が増えてくる傾向にあると感じる。 ・夜間街頭指導活動では、どのように声掛けしていいかわからないという声もあり、街頭指導ボランティアが声掛けしやすいよう、声掛け例を記したチラシを配布するなどし活動を継続していく。		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標	平成28年度	目標	全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	全市民が夜型社会を是正を図り、青少年の夜遊びや深夜はいかい防止を目指す。夜間街頭指導活動を実施し、青少年への帰宅指導に取り組む。	平成28年度「青少年の深夜はいかい防止・未成年者飲酒防止・夏の交通安全運動・いじめ暴力根絶」名護市民大会(454名) ・県民一斉行動夜間街頭指導活動・夏祭り夜間街頭指導活動(230名) ・さくら祭り夜間街頭指導活動(193人) ※夏祭りはテナント営業終了時間が午後9時30分であることから、青少年育成協議会から祭り終了時間の配慮について、商工会青年部に要請文を提出した。	市民大会は、小学生が絡む暴力・動画事件を受け、「いじめ暴力根絶」を含む名護市民大会として開催し、市民を代表し小中高生、交通安全協会会長、青少年育成協議会会長が大会宣言を行った。 ・これまでも夏祭りは午後9時30分に終了してきたが、街頭指導ボランティアから8時45分から巡回活動を行うが祭りが終わっていないため、帰宅指導がしにくいとの声があった。祭り終了時間が午後9時30分では未成年者が10時までに帰宅ができず、輔導対象なることから、祭り終了時間について商工会青年部に要請を行った。 ・街頭指導活動は、夜間の深夜はいかい防止のための巡回だけでなく、暴力問題や不審者問題等からも下校時の巡回活動を行う必要がある。	成果及び反省点
		成果指標	「深夜はいかい防止等名護市民大会」参加者数 夜間街頭指導活動への参加者数 未成年者の深夜はいかい輔導数(年間)名護署管内 未成年者飲酒輔導数(年間)名護署管内 夏まつりにおける夜間街頭指導ボランティア数 さくら祭りにおける夜間街頭指導ボランティア数	目標値	500人 700人 0人 0人 230人 230人	目標値	300人 700人 0人 0人 230人 230人	実施値	454人 約600人 587人 44人 230人 193名	
③ 成人式の開催		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:平成28年名護市成人式を実施		成人式典については、企画スタッフの協力もあり何事もなく終わることができた。式典後もロータリーを封鎖し車両を一方通行にし、暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖などの問題点の解消を図った。1件バイクの暴走があったが、警察署職員に対応してもらった。		前年度まで、式典後のロータリーへの暴走バイクやオープンカーによる道路の封鎖など問題があったことから、警察署の協力も得て、ロータリーを封鎖し車両を海側から野外ステージ側に一方通行にしたことから、大きな問題行動もなく無事成人式典を終えることができた。また、親や先輩後輩のお酒の持ち込みも例年に比べ減っているように見受けられ、警察署、少年輔導員協議会からも毎年このように行ってほしいとの意見をいただいた。		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標	平成28年度	目標	新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	新成人が成人に達したことを社会的に認知し、新たな門出を祝福する。	新成人企画スタッフを募集し、成人式展・その他について、企画スタッフ会議を数回実施し成人式を開催。暴走行為に関する対応は、地域協働係が行っている。	新成人スタッフの協力もあり、式典は終わることができた。今後は青年会の協力も得ながら、小中高生の期待族への声掛けや、新成人への声かけなどの必要。名護市青年ネットワーク連合会に協力の依頼をしていきたい。	成果及び反省点
		成果指標	成人式典の新成人参加者数 問題行動発生件数	目標値	800人 0件	目標値	800人 0件	実施値	約700人 1件	
④ 自然体験活動を通じた児童生徒の健全育成事業の充実		平成27年度現状				現状をもたらした原因				
取組の内容:ふるさと・未来・絆リーダー研修の実施 名護市子連リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会		ふるさと・未来・絆リーダー研修の実施 名護市子連リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会		ふるさと・未来・絆リーダー研修が雨天のため日程の変更が続中、高校生のリーダーシップや名護大学生ボランティアのサポートにより、団員が声を掛け合い協力しながらPA体験や自然体験、野外炊飯などの活動を行った。また、市子連の研修では、心肺蘇生法やリーフ体験、ウミガメの卵の観察など大自然に触れ、感性を磨く機会となった。		取組概要		成果及び反省点		
		平成30年度	目標	平成28年度	目標	自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	自然に触れ、生きる力を養い、異年齢集団で活動し、協調性・規範意識を学ぶ機会とする。	名護市青少年育成協議会「ふるさと・未来・絆リーダー研修」(177人) ・班長・副班長及び全体事前研修(座学、カヌー体験) ・全体事前研修①(地層見学、土でクレヨン作り体験、野外炊飯、県外研修準備、宿泊研修) ・全体事前研修②(県外研修に向けての準備、交流会の練習) ・本研修(電車乗車体験、館林市児童との交流、手打ちうどん作り体験、国立科学博物館・国会議事堂見学) 名護市子ども会育成連絡協議会「リーダー・ジュニアリーダー・育成者合同研修会」 ・心肺蘇生法講習、ウミガメの卵観察、リーフ体験(45人)	ふるさと・未来・絆リーダー研修と館林市児童交流事業を合同実施したことで、市子連の役員とも連携協力し、とてもより体験活動となった。	成果及び反省点
		成果指標	自然体験活動の実施回数	目標値	2回	目標値	2回	実施値	6回	

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
	総合評価 ( A・B・C・D )	B	B	B	A					総合評価 ( A・B・C・D )	B	B	B	B			
	上記評価とした理由又は特記すべき事項	スポーツ及び文化面における多様多様化した反面、一部、偏っているようにもとれる。より幅広い多くの体験活動を推進することが大事である。 成人式においては実行委員会や新成人スタッフ等の協力で前年度より改善されたが、今後の開催についての検討も必要である。 光文字が全体で取り組めたことは良かった。								成人式については、「新成人企画スタッフ会議」の取組で、式典を成功に導いている。 青少年の健全育成事業は、研修の形態を変えたりしながら取り組んでいるが、事業周知やスタッフの不足など、教育効果が高いが、市民の認知低い点をどう考えるか検討する時期だと考える。 未成年者の深夜はいかい輔導数が例年多いため、対策を講ずる必要がある。 すべての項目で取り組みは評価できるが、その事業効果と人的コストや時間など今一度取り組みの点検を望む。							

-52-

具体的施策名	家庭教育の支援	主管課	総務課、学校教育課、地域力推進課(社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(2)	家庭教育の支援

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 「家庭教育支援事業」の推進 取組の内容:家庭教育支援チームを組織し、保護者や子育て支援関係者への研修会・講演会等の学習機会の企画・実施や家庭教育支援アドバイザーの養成し、成長発達段階の子どもの関わり方を学ぶ「親のまなび愛プログラム」に取り組む。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		平成27年度は、家庭教育支援チーム員や子どもの家の支援者を中心に、親のまなびあいプログラムや研修会に取り組んできました。また、学校の授業参観やスポーツ団体の大会に合わせ保護者や指導者を対象に「親まなびあいプログラム」講座を実施し、実施校校長や参加者から好評を得ている。平成28年度からは家庭教育支援チームが中心となり、家庭教育についてのニーズを把握し、関係団体や幼小中学校で保護者への学びの場が提供できるよう取り組みたい。				家庭教育は、子どもの生活習慣の確立や規範意識の向上など重要な役割を担っている。しかし、家庭を取り巻く教育環境は大きく変化し、家庭教育が困難な社会になっている。保護者への学びの場や情報交換の場を提供し家庭教育力の向上に取り組む必要がある。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
		保護者へ家庭教育に関する学びの場を提供することによって、子育てに前向きに取り組む、家庭教育が向上する。		保護者へ家庭教育に関する学びの場を提供することによって、子育てに前向きに取り組む、家庭教育が向上する。		○夢実現「親の学びあい」プログラムの実施 ・久辺幼稚園・栄光幼稚園・あい保育園・東江幼稚園・屋部幼稚園・名護幼稚園・名護小学校・緑風学園幼稚園・緑風学園・緑風学園・キリン保育園・ひるぎ学園・緑風学園・安和幼稚園・屋部小学校(15回:191人) ○親の学びの場の提供 ・子どもの夢を叶えたい保護者へ！「夢を叶える！黄金の五か条」(53人) ・親子でMy積木づくり、親子で体験・コミュニケーション(親子15組(25人)) ・インターネット・スマートフォン教育講演会(70人) ・～家庭で子どもの命を守ろう～普通救命講習Ⅲ(29人) ・保護者向け『ネット・スマホと上手に付き合うための親の学び講座』(20人) ・～子育て中のパパ・ママへ～ゆんたくCafé(13人) ・～子育て中のパパ・ママへ～絵本マルシェ(55人)		学校の授業参観やPTAの集まりを利用し、保護者を対象「親まなびあいプログラム」講座を実施し、実施校校長や参加者から好評を得ている。また、様々な親の学びの場の提供を行った。			
		平成30年度	目標値	300人	平成28年度	目標値	300人	実施値	484人		
		成果指標	研修会等への参加者数								
		② 子育てについての課題や悩みを解消するため、地域や学校と連携した講座の実施 取組の内容:子どもの発達段階に応じた子育てについての課題や悩みを解消するため「乳幼児期」「学童期・思春期」講座を学校と連携して実施。									
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		社会教育指導員(3人)を中心に、前年度中に全小中学校にアンケート調査を実施し、各学校から要望のあった11校にて課題解決のための講座を行った。				市民アンケートや学校アンケートを基に講座を企画し、地域コーディネーターの協力で周知もうまくいったと考えられる。					
		目標		目標		取組概要		成果及び反省点			
講座の開催		講座の開催		(学童思春期講座7回)①ペアレントトレーニング:26人 ②けがをしなない体づくり:100名③ころはどこにありますか:130人 ④すべてにありがとう:501人 ⑤夢を叶える黄金の五か条(東江中):300人 ⑥夢を叶える黄金の五か条(大宮小):41人 ⑦10年後のために「今」できること:31人(乳幼児期講座)①ママはおうちのセラピスト:14組 ②HopStepENGLISH Galopクラス4回:40組 ③HopStepENGLISH Trotクラス4回:44組		学童思春期講座については市内全小中学校からアンケートを取り、要望のあった9校中7校で講座を開催出来た。					
平成30年度	目標値	15回	平成28年度	目標値	12回	実施値	10回				
成果指標	課題別子育て講座回数										
③ 「家庭の日」・「早寝・早起き・朝ごはん運動」や「6:30運動」の推進 取組の内容:学方向上推進委員会社会力育成部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
各中学校区学方向上推進委員会で「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」について啓発を行う。また、防災無線による6時30分の時報放送を実施している。				学校と家庭、地域社会が連携し、家庭・地域の教育力を高めると共に、幼児児童生徒の健全育成が必要なため							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」の推進し、市民意識の高揚を図る。		「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」の推進し、市民意識の高揚を図る。		学方向上推進委員会社会力育成部会にて、「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」「家庭の日」の啓発活動に取り組む方針を確認し、地域懇談会では「家庭の日」「早寝・早起き・朝ごはん運動」「6:30運動」等について、保護者だけでなく地域の方々に取り組みの紹介や意見交換を行った。		市内小中学校からは、子ども達の生活習慣の確立や保護者の家庭教育の意識向上に役立っていると好評を得ているが、部活動との連携が不十分との声もある。					
平成30年度	目標値	4回	平成28年度	目標値	4回	実施値	4回				
成果指標	社会力育成部会の開催回数	4回									
	早寝が習慣化している児童生徒の率	95%					93.20%				
	早起きが習慣化している児童生徒の率	80%					77.51%				
	朝ごはんを食べている児童生徒の率	95%					90.59%				
	6:30運動の周知率(小中学校、PTA、区)	100%					43%				
④ 弁当の日の実施 取組の内容:弁当の日を実施することで献立づくり、買い出し、料理、調理、片づけまで、子どもが1人でつくることによる食への興味を引出し、食物、食肉などその命をいただき、命の尊さ、そして料理をつくる人、ご両親、給食センターで働く調理員、職員に関係する方々に感謝の気持ちを育む。											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
小中学校内の食育授業や講演会等とおして弁当の日の実施を啓発しており、H26年度には4校の実施があった。				食育教育の一環として、市内の小中学校にて実施しているが、全校実施には至っていない。							
目標		目標		取組概要		成果及び反省点					
名護市内すべての小中学校において弁当の日を実施する。		名護市内小中学校14校において弁当の日を実施する。		子どもがつくる弁当の日の提唱者「竹下和男氏」の講演会開催(参加者140名)【実施校】屋我地小、真喜屋小、稲田小、安和小、大宮小、名護小、瀬喜田小、久志小、大北小、屋我地中、羽地中、名護中、屋部中、東江中、久志中、久辺中、大宮中		目標を上回る17校で実施した。平成30年度までの全校実施に向けて講演会等とおして啓発を行いたい。					
平成30年度	目標値	21校	平成28年度	目標値	14校	実施値	17校				
成果指標	弁当の日実施校										
	弁当の日に関する講演会						1回				

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B	B				
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	家庭教育に対する事業はいいのだが、支援事業の繋がりが見えない。家庭を支援するためには、コミュニティ的な組織の中で推進する必要がある。家庭教育の充実是最優先課題である。全ては、家庭教育から始まるため、特に保護者の子育ての重要性に重点をおく必要がある。							
外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B	B	A			
	総合評価 (A・B・C・D)	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	②の講座は、中央公民館講座と重なった事業となっている。その他の事業にも他の課との重なりがあるので整理が必要ではないか。家庭教育の重要性は誰もが認識して、事業としては充実した取り組みができていていると思われる。継続することとその成果をどう学校教育や社会教育、高等教育機関へつなげるか、さらなる工夫を期待する。							

具体的施策名	地域の教育力の充実	主管課	学校教育課、 地域力推進課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基 本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(3)	地域の教育力の充実

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 「子どもの家事業」の推進 取組の内容: 放課後の居場所に困っている子どもとその父母を支援するために、地域の公民館等を活用して子どもたちの居場所「子どもの家」を設置し、地域の方々に協力を得て地域の子どもの家を育てます。	平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		放課後等の子どもたちの居場所づくりとして、名護子育て支援塾に事業委託し公民館等を活用し子どもの家を設置して放課後の子どもたちの居場所づくりを行っているが、新規で2カ所の子どもの家が開所したが、開所できなくなった子どもの家もある。				支援者の変更や会場の確保の問題により開所できなくなった。新規に開所した子ども家については、学校からの要望や地域の支援者の協力により開所することができた。					
		平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
			地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組み。		地域の公民館等を活用し、放課後等における子ども達の安全・安心な環境を設け、地域の方々の参画を得ながら活動などの取り組み。		行政、関係団体との顔合わせ・事業説明 ・各区長会へ事業説明と協力依頼 ・総会、定例会(12回) ・研修会「夢を叶える黄金の5カ条」 ・研修会「インターネット・スマートフォン教育講演会」 ・研修会「普通救命講習」 ・研修会「ネット・スマホと上手に付き合うための親の学び講座」 ・さくら祭り特設子どもの実施		地域の支援者の協力により子どもの家が運営されている。支援者も研修会等に積極的に参加し、活動の場に活かしている。支援者の確保等の問題により、2カ所の子ども家が開所できなかった。新規に開所した子ども家については、区からの要望や地域の支援者の協力により開所することができた。また、子どもサポーターの独自の動きにより、年度途中で閉所してしまった子どもの家がある。		
			目標値	20か所	目標値	20か所	実施値	18か所			
		成果指標	子どもの家実施数								
		② 「学校・家庭・地域連携事業」の推進 取組の内容: 学校・家庭・地域の教育力を向上させ、地域全体が一体となって子どもたちの健全育成に取組むため、教師・保護者・地域住民が相互に交流を行い連携する体制を充実し、教員や地域の大人が子どもと向き合う時間の増加、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、地域住民がサポーターとして学校の教育活動を支援する取組を推進する。									
		平成27年度現状				現状をもたらした原因					
		コーディネーターを各学校への配置から社会教育課に配置し、定例会を実施することで互いの情報交換、研修会等の企画・実施についてコーディネーターの資質向上にもつながり、円滑に学校支援に取り組むことができ、地域コーディネーターの活動について適切に管理できるようになった。				学校によって地域コーディネーターに資料印刷や学校行事の準備などの雑務をさせることがあり、内容によってはコーディネーターへ謝金を支払えない部分もあったため。社会教育課に配置し、適切な管理することで情報共有が強化され、円滑に支援活動に取り組むことができる。					
		平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点		
教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。			教師・保護者・地域住民が相互に交流・連携することで、住民等の学習成果の活用機会の充実を図り、学校の教育活動の支援に取り組む。		地域コーディネーターを配置(11人) ・「学校・家庭・地域連携事業」運営委員会の開催(2回) ・地域コーディネーター情報交換会の開催(40回) ・インターネット・スマホ教育講演会(1回) ・地域コーディネーター研修会(1回) ・読み聞かせボランティア研修会・交流会(3回) 学校支援ボランティア 延べ人数: 37,523人 活動数: 10,643件		コーディネーターの経験や資質及び学校側の事業への理解度が上がり、成果が期待できる。				
目標値	12人		目標値	11人	実施値	11人	40回	37,523人			
成果指標	地域コーディネーターの人数										
		地域コーディネーター情報交換会回数									
		学校支援ボランティア延べ人数									
③ 取組の内容:											
平成27年度現状				現状をもたらした原因							
平成30年度	目標		目標		取組概要		成果及び反省点				
	目標値		目標値		実施値						
成果指標											

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 ( A・B・C・D )	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	地域の教育力の低下は憂うべき状況である。地域の公民館を拠点とし、各支部毎の社会教育主事を中心に、コーディネーターを活用した、学校を巻き込んだコミュニティソーシャル的な取組を推進する必要がある。コーディネーターの継続年数が長い方など、研修を重ねられ資質が向上している。コーディネーターの交代があっても担当している地域活動が継続した取組となるよう資質向上の研修会をもっと多く持つ必要がある。多くの市民が地域コーディネーターの活動に興味関心を示し支援する取組も必要である。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 ( A・B・C・D )	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	A					
	総合評価 ( A・B・C・D )	A						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	子どもの家事業の取り組み概要に、研修会などが列記されていることに違和感があるが、各公民館等での見守り活動・居場所づくり活動は評価できる。もっと、子どもの家事業の事業内容などを保護者や子供へ周知してほしい。学校・家庭・地域連携事業は支援者やコーディネーターがその職務を十分に認識して活動するための研修が充実しており、コーディネータを中心に仕組みが安定した感があり、評価できる。今後さらなるブラッシュアップを期待したい。							

具体的施策名	社会教育団体の活性化	主管課	地域力推進課 (社会教育課)	第2次名護市教育振興基本計画での位置づけ	教育方針	Ⅲ	学校・家庭・地域の連携・協力体制づくり
					個別目標	1	地域・家庭の教育力の再生
					具体的施策	(5)	社会教育団体の活性化

目的	青少年の健全育成体制の充実及び家庭教育の支援を図るため、学校・家庭・地域及び関係機関が連携して、地域全体で子どもを育む体制を整えていきます。
----	--

主な取組	① 各支所の社会教育主事による地域の社会教育団体等の支援・社会教育だより等の充実 取組の内容:地域の行事等に参画しながら、課題解決に向けた手立てを住民と一緒に考えて、社会教育団体支援を推進する。地域限定広報誌を活用し、情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		キッズダンスサークルの立ち上げや、地域行事のサポート、新規でスタートしたイベントの実行委員会の支援、各支部青少年育成協議会の事業のサポートや新規事業の企画・実施など、積極的に行っている。 地域限定広報誌については、屋部支所管内「虹」、屋我地支所管内「やがじ」、羽地支所管内「羽地」を発行している。社会教育だより「心」については、現在は発行していない。		地域住民、社会教育団体が地域の課題や取り組みについて、自ら考え、行動できる形を目指す。 広報誌は情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。		地域住民、社会教育団体が地域の課題や取り組みについて、自ら考え、行動できる形を目指す。 広報誌は情報を届けるだけでなく、広報誌を通じ住民同士が繋がり、地域が元気になるきっかけづくりになるよう情報発信する。		社会教育主事が地域に出向き、地域を元気にする活動を地域の方々の交流や毎月情報を届ける広報誌で奨励し区長等のやる気を引き出すなど、地域が主体的に取り組むよう取り組んだ。 社会教育だより「心」については、市民のひろばと同じ内容となっていることから、休止ということとなり、現在は発行していない。	
		目標	目標	取組概要	成果及び反省点				
		平成30年度	平成28年度	各支所での社会教育主事の取組:(地域限定広報誌の発行、区長会や各区行事等への参加、地域住民と共に地域イベントや社会教育団体等の事業の企画、運営、実施、社会教育団体への活動支援、学校への支援) 地域限定広報誌各支所に派遣されている社会教育主事により、毎月各支所管内の地域の情報を取材し全世帯に配布しています。	積極的な取り組みにより、地域活動が活発になっている状況もあるが、社会教育主事がどこまで関わり支援するのか、いかに地域が主体となった活動にしていけるか。地域を元気にする取り組みや活動者の声を届けることで、住民相互が繋がるきっかけとなっている。				
成果指標	広報誌の発行	目標値	毎月1回	目標値	毎月1回	実施値	毎月1回		
主な取組	② 「名護市青年ネットワーク連合会」「名護市婦人会」「名護市子ども会育成連絡協議会」等の活動の支援 取組の内容:社会教育団体の活動を支援するため、補助金の交付や指導者研修会を実施している。各団体とともに、時代に応じた組織の在り方や活動内容などについて考えるとともに、団体指導者研修会等を実施し、活動の活性化を支援します。	平成27年度現状				現状をもたらした原因			
		名護市子ども会育成連絡協議会と連携し、各区の子ども会育成者を対象に指導者研修会を実施した。また、名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、団体統合に向けて検討会議を行い、統合に向けて調整を行っている。		各団体の指導者等の資質の向上を図るため、研修活動を実施、支援し、自ら考え、自ら行動できる団体を目指す。		各団体の指導者等の資質の向上を図るため、研修活動を実施、支援し、自ら考え、自ら行動できる団体を目指す。		名護市子ども会育成連絡協議会は、加入子ども会の減少により各区子ども会育成者へのプログラムや情報の提供、連携した育成活動ができない状況だった。市子連・社会教育課で連携し育成者研修会を行い、育成者研修と子ども育成活動に取り組むため。名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、同じ方々が団体役員を兼務していることから、団体間で協議し、平成28年度は名護市青年ネットワーク連合会に団体の統合を予定している。	
		目標	目標	取組概要	成果及び反省点				
		平成30年度	平成28年度	・名護市青年ネットワーク連合会、名護市青年エイサー祭り実行委員会の団体統合の実施 ・名護市青年ネットワーク連合会の活動支援 ・子ども会育成連絡協議会の活動支援 ・子ども会育成者研修会(3回) ・名護市PTA連合会の活動支援 ・名護市婦人会の活動支援 ・名護市婦人会指導者研修会  名護市子ども会育成連絡協議会は、加入していない区の子ども会や子ども育成団体に参加を呼びかけ事業を実施するなど、繋がり作りや団体加入の促進に向けて工夫を凝らし取組を行っています。 名護市青年ネットワーク連合会と名護市青年エイサー祭り実行委員会は、これまでの個々の活動を強化及び合理化するため団体統合を行い、加入団体と協力した名護市青年エイサー祭りの開催や女性会員の意識向上を目的に女性会員研修、各区青年会の交流と団体加入の促進を目的にスポーツ交流大会を開催し活動を行っております。 名護市婦人は、婦人会員研修を実施し活動充実を図っております。また、市民のひろばを活用し市婦人会活動の紹介を行うなど、会員増に繋げる工夫を行っています。	各団体と連携し団体や会員加入の促進や組織の改善に向けた取り組みや研修会の実施など、各団体とも積極的に活動を行いました。しかし、団体や会員の加入、役員の担い手の不足など、これまでと同様に課題が残る。今後も各団体と連携し、現在の社会状況に併せた団体の在り方や活動内容について情報交換をしながら、会員の資質向上と加入促進に向け継続的に支援していけるよう取り組んでいきます。				
成果指標	社会教育団体指導者研修会の参加者数	120人	120人	124人					
	名護市青年ネットワーク連合会団体数	12団体	10団体	10団体					
	名護市婦人会会員数	400人	450人	310人					
	子ども会会員数	235人	280人	264人					

内部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		A	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	社会教育主事が各支所に配属されて、地域活動での成果は高まっている感じがする。地域限定広報誌発刊以外にも地域活動にもっと積極的に取り組んでほしい。 社会教育関係団体の閉塞感は止まらない。各支部を中心に、リーダーの担い手を育成するために関係機関の連携する環境が望まれる。							

外部評価	それぞれの主な取組に対する評価 平成28年度の目標に対して行った取組概要が適切か 取組によって得られた成果及び反省点に対する評価 (A・B・C・D)	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦
		B	B					
	総合評価 (A・B・C・D)	B						
上記評価とした理由又は特記すべき事項	社会教育主事による広報誌の発行は地域住民の情報共有、地域の活性化等に成果をあげている。 社会教育団体の支援、指導者の育成は容易でなく、現代社会でコミュニティの重要性が認識されているにも関わらず、後回しにされがち分野で、その取組が危惧される。 事業として担当職員は頑張っているとは思いますが、子ども会、青年会、婦人会等については、様々な課題が山積しており全庁的な取組が必要と感じている。 機構改革等もあり、現場情報の流通する仕組みや、地域との連携体制など、点検が望まれる。							